

平成9年度版

# こころの健康センター所報

三重県こころの健康センター  
(精神保健福祉センター)

## はじめに

早くも秋です。今年もあたふたと仕事に追われ、十分な業務検討をする暇もなく、すでに年度の半分が過ぎてしまっています。

毎年、あれやこれやと新しい事業を考え、所内で議論するものの、いざとなると弱小部隊の悲しさで、運営要領に示された事業をこなすのが精一杯というのが、偽らざる現実です。

さまざまな社会領域で心の健康が問題になり、心のケアへの新しいニーズが手にとるように感じられるだけに、もどかしいような欲求不満が続きます。

またセンターを取り巻く状況も大きく変わろうとしています。

今年9月に公表された、精神保健福祉法に関する専門委員会報告書では、精神障害者福祉における市町村の役割強化、三障害福祉施策の統合化等の方向性がはっきりと打ち出されています。

三重県においても、平成10年4月より、旧来の保健所、福祉事務所、児童相談所が、各県民局保健福祉部として統合されました。民間の精神保健福祉関連資源も、精神保健法から精神保健福祉法に到る10年間でずいぶん充実してきました。

運営要領は全国共通のスタンダードであるにしても、「三重県のセンターは何をするのか」とさらに問い直し、三重県らしいセンターを構想する時期のようです。

さらにご支援のほどを。

平成10年秋

三重県こころの健康センター

所長 原田 雅典

# 目 次

はじめに

I. こころの健康センター概要	1
1. 沿革	1
2. 業務	1
3. 施設の概要	2
4. 組織及び職員	4
II. こころの健康センターの活動	5
1. 技術指導援助	5
2. 教育研修	9
(1) 研修会	9
(2) 実習生の受け入れ	15
3. 協力組織の育成	17
(1) 関係団体への協力援助	17
(2) 精神保健ボランティア教室	19
4. 精神障害者福祉推進事業	23
(1) 精神障害者就労相談	23
(2) 精神障害者自立援助	24
(3) 社会復帰関連施設支援	26
5. 広報・啓発	29
(1) センターだより「こころの健康」の発行	29
(2) 所報「こころの健康センター所報」平成8年度版の発行	30
(3) 講演会・講義・座談会等	30
(4) 心の健康づくりフェスティバル	34
6. 精神保健福祉相談	37
(1) 精神保健福祉相談	37
(2) 思春期講座	44
7. 調査・研究	49
III. 資料編	55

# I. こころの健康センター概要

1. 沿革
2. 業務
3. 施設の概要
4. 組織及び職員

## 1. 沿革

- 昭和61年5月 三重県こころの健康センター（精神保健福祉センター）は、精神保健法第7条の規定に基づき、地域精神保健福祉活動の技術的中枢機関として、三重県津庁舎津保健所棟1階（津市桜橋3丁目446-34）に開設され、保健環境部保健予防課の分室としてスタートする。  
初代所長 原田雅典氏 就任。  
精神科医1名、看護婦1名、保健婦1名、事務職1名、計4名の常勤職員が配置される。他に、電話相談員（嘱託）2名が配置される。
- 昭和62年4月 精神科ソーシャル・ワーカー（PSW）が初めて配置される。
- 昭和63年10月 三重県久居庁舎（久居市明神町2501-1）の完成に伴い同1階に移転する。
- 平成元年4月 県健康福祉対策課の出先機関として独立。  
心理技術者（CP）が初めて配置される。
- 平成6年4月 精神科医1名増員される。
- 平成9年6月 心理技術者（CP）が1名増員される。

## 2. 業務

当こころの健康センターは、「精神保健福祉センター運営要領」（健医発第57号厚生省公衆衛生局長通知、平成8年1月19日）に基づき、次の業務を行っている。管轄は、県下全域である。

### (1) 企画立案

地域精神保健福祉を推進するため、都道府県の精神保健福祉主管部局及び関係諸機関に対し、専門的立場から、社会復帰の推進方策や、地域における精神保健福祉施策の計画的推進に関する事項等を含め、精神保健福祉に関する提案、意見具申等をする。

### (2) 技術指導及び技術援助

地域精神保健福祉活動を推進するため、保健所、市町村及び関係諸機関に対し、専門的立場から、積極的な技術指導及び技術援助を行う。

### (3) 教育研修

保健所、市町村、福祉事務所、社会復帰施設その他の関係諸機関等で精神保健福祉業務に従事する職員等に、専門的研修等の教育研修を行い、技術的水準の向上を図る。

### (4) 普及啓発

都道府県規模で一般住民に対し精神保健福祉の知識、精神障害についての正しい知識、精神障害者の権利擁護等について普及啓発を行うとともに、保健所及び市町村が行う普及啓発活動に対して専門的立場から協力、指導及び援助を行う。

### (5) 調査研究

地域精神保健福祉活動の推進並びに精神障害者の社会復帰の促進及び自立と社会経済活動への参加の促進等についての調査研究をするとともに、必要な統計及び資料を収集整備し、都道府県、保健所、市町村等が行う精神保健福祉活動が効果的に展開できるよう資料を提供する。

### (6) 精神保健福祉相談

センターは、精神保健及び精神障害者福祉に関する相談及び指導のうち、複雑又は困難なものを行う。心の健康相談から、精神医療に係る相談、社会復帰相談をはじめ、アルコール、薬物、思春期、痴呆等の特定相談を含め、精神保健福祉全般の相談を実施する。センターは、これらの事例についての相談指導を行うためには、総合的技術センターとしての立場から適切な対応を行うとともに、必要に応じて関係諸機関の協力を求めるものとする。

### (7) 組織育成

地域精神保健福祉の向上を図るためには、地域住民による組織的活動が必要である。このため、センターは、家族会、患者会、社会復帰事業団体など都道府県単位の組織の育成に努めるとともに、保健所、市町村並びに地区単位での組織の活動に協力する。

## 3. 施設の概要

### (1) 所在地

〔昭和61年5月1日～昭和63年10月8日〕

三重県津市桜橋3丁目446-34 三重県津庁舎津保健所棟1階

〔昭和63年10月9日以降〕

三重県久居市明神町2501-1 三重県久居庁舎1階

### (2) 施設の状況

〔昭和61年5月1日～昭和63年10月8日〕

三重県津庁舎津保健所棟1階 1室 52.9㎡

〔昭和63年10月9日以降〕

三重県久居庁舎1階

ア 敷地面積（久居庁舎） 11,617.29㎡

イ 建物面積（本館棟） 延床面積 5,484.50㎡

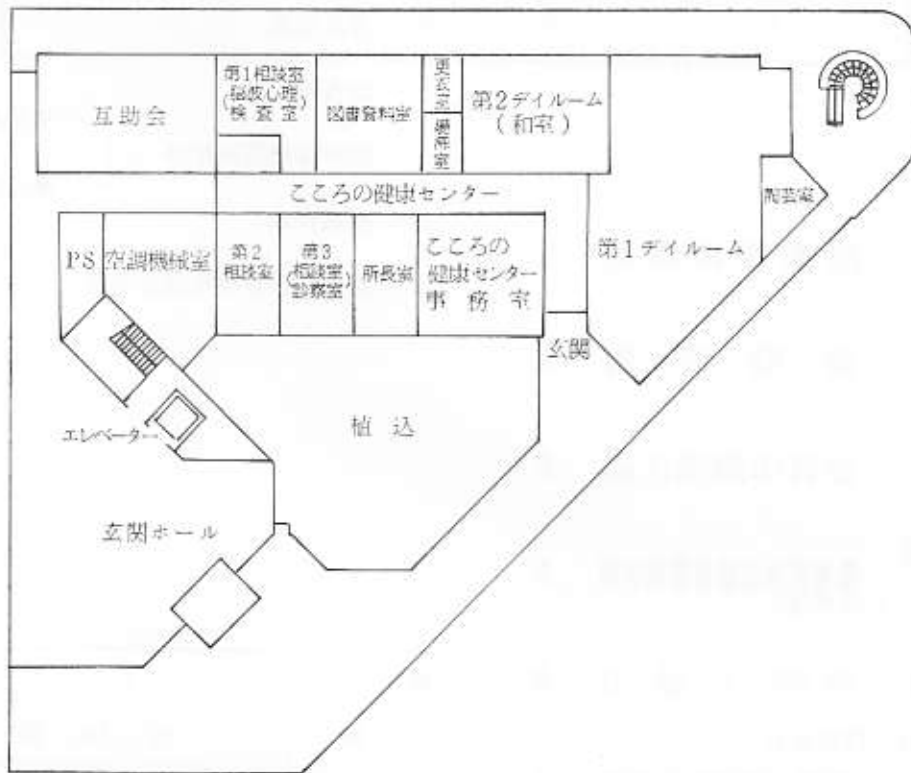
ウ 建物構造（本館棟） 鉄筋コンクリート造4階建、一部5階建

エ 当センター占有面積 723.0㎡

オ 各室面積

事務室（電話相談室、所長室）	65.2㎡	第1デイルーム	140.4㎡
第1相談室（脳波、心理検査室）	30.8㎡	第2デイルーム（和室）	44.8㎡
第2相談室	23.9㎡	陶芸室	11.3㎡
第3相談室（診察室）	26.5㎡	更衣室、湯沸室	12.0㎡
図書資料室	37.0㎡	各室面積 計	391.9㎡

三重県こころの健康センター平面図



## 4. 組織及び職員

### 所掌事務



### 職員構成

[平成9・10年度]

職名	職種	氏名
所長(技術吏員)	医師	原 田 雅 典
主幹(事務吏員)	ソーシャルワーカー	村 木 顕太郎
主幹(技術吏員)	医師	松 崎 ま み
主幹(技術吏員)	心理技術者	久 保 早百合
主幹(技術吏員)	保健婦	竹 内 貞 子
主任主事(事務吏員)	一般事務	林 　　いつ子
技師(技術吏員)	保健婦	藤 田 典 子
技師(技術吏員)	心理技術者	山 口 裕 子
電話相談員(嘱託)		2 名
計		10 名



## Ⅱ. こころの健康センターの活動

1. 技術指導援助
2. 教育研修
3. 協力組織の育成
4. 精神障害者福祉推進事業
5. 広報・啓発
6. 精神保健福祉相談
7. 調査・研究

## 1. 技術指導援助

## 技術指導援助

地域精神保健福祉活動を推進するために、保健所等関係機関に対して、専門的立場から情報提供や助言、講師派遣やコンサルテーション等技術指導援助を行っている。

保健所に対しては専門的立場から積極的に技術指導援助を行っているが、今年度より市町村にも積極的な技術援助を呼びかけ、その要請に応じている。また、新規事業として「こころの機動班事業」を開始している。

平成9年度の実施回数は、831回であり、昨年より8.6%増加している。

内容別では、ケースコンサルテーション・研修会や健康教育・情報提供等が上位を占めている。しかし保健所においては、地域精神保健連絡会議への支援が、教育関係ではケースコンサルテーション、市町村では研修会等での講演が特色となっている。特に行政関係においては、情報提供や企画等への意見具申をしているが、その他が50%あり、支援内容の多様性がうかがえる(表1・表2)。

関係機関別では、保健所29.1%・行政19.7%・教育18.2%・市町村8.5%が上位を占めている。またこれらの機関を経年的にみると、教育、行政への支援が急増している(表3)。

新規事業「こころの機動班事業」では、多様化する処遇困難事例や相談活動に対し、精神科医・保健婦・心理技術者・ソーシャルワーカーからなる多職種チーム(こころの機動班)を編成し現場にて直接相談・指導を行っている。実施回数は9回、参加者は保健所および市町村保健婦・社会福祉協議会職員・市町村関係担当職員・養護教諭等、従来にない広がりや深みのある技術指導援助となっている(表4)。

表1 平成9年度 関係機関への技術指導援助

関係機関	実施回数	参加人数	指導援助内容							職種別指導援助回数						
			企画助言	情報提供	ケース援助	事例検討会	ケア	研修会及び健康教育	その他	医師A	ソーシャルワーカー	医師B	心理A	保健婦A	保健婦B	心理B
保健所	242	1,985	16	28	34	14	11	39	100	43	22	41	61	65	33	18
福祉機関	43	625	1	3	14	-	-	16	9	10	2	2	17	7	5	-
医療機関	36	212	2	12	12	1	-	2	7	11	-	-	16	4	4	1
行政機関	164	521	23	33	13	4	-	7	84	95	6	26	22	9	3	3
教育機関	151	581	11	18	50	4	-	31	37	32	2	4	104	7	1	1
市町村	71	494	2	7	17	9	-	28	8	5	5	9	21	30	9	1
労働機関	5	8	1	-	2	-	-	2	-	1	1	-	4	-	-	-
司法機関	4	52	-	-	1	-	-	1	2	-	-	1	3	1	-	-
精神保健団体	55	181	2	10	19	-	-	5	19	3	4	2	17	24	6	1
学生教育実習	7	90	-	-	-	-	-	4	3	1	-	-	3	3	-	-
その他	53	510	1	11	6	-	-	10	25	28	1	7	9	3	6	2
計	831	5,259	59	122	168	32	11	145	294	229	43	92	277	153	67	27

表2 平成9年度 保健所技術指導援助実施状況（再掲）

保健所	実施回数(回)	参加人数(人)	指導援助内容									職種別指導援助回数						
			企画助言	情報提供	ケース援助	事例検討会	アイデア関連	研修会等	連絡会議	業務検討会	その他	医師A	ソーシャルワーカー	医師B	心理A	保健師A	保健師B	心理B
桑名	17	166	-	2	-	1	1	5	-	1	7	2	3	4	3	4	3	1
四日市	14	67	2	-	3	2	-	4	-	-	3	3	1	1	5	3	1	1
鈴鹿	21	115	-	6	3	3	3	-	2	1	3	2	2	3	10	1	3	2
津	23	234	3	2	2	-	2	5	2	3	4	7	2	7	3	2	3	-
久居	20	144	3	4	1	-	1	-	9	2	-	3	3	2	6	7	3	2
松阪	57	422	5	8	6	2	1	7	16	9	3	6	2	4	21	24	4	5
伊勢	9	135	-	1	-	1	-	3	1	1	2	1	1	1	3	2	1	1
志摩	28	288	2	1	3	1	1	3	8	1	8	7	4	8	3	9	2	2
上野	23	147	-	2	11	2	-	3	3	-	2	3	4	4	4	5	7	-
尾鷲	5	83	-	-	2	1	-	1	-	-	1	1	-	2	-	1	2	1
熊野	25	184	1	2	3	1	2	8	1	1	6	8	-	5	3	7	4	-
合計	242	1,985	16	28	31	14	11	39	42	19	39	43	22	41	61	65	33	18

表3 年度別 主要関係機関への技術指導援助実績

年度区分	平成元年度	平成2年度	平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度
保健所	161	199	181	195	203	119	270	245	242
行政	18	40	59	84	113	72	103	129	164
市町村	21	26	16	26	21	32	37	51	71
教育	9	45	69	78	69	80	106	148	151

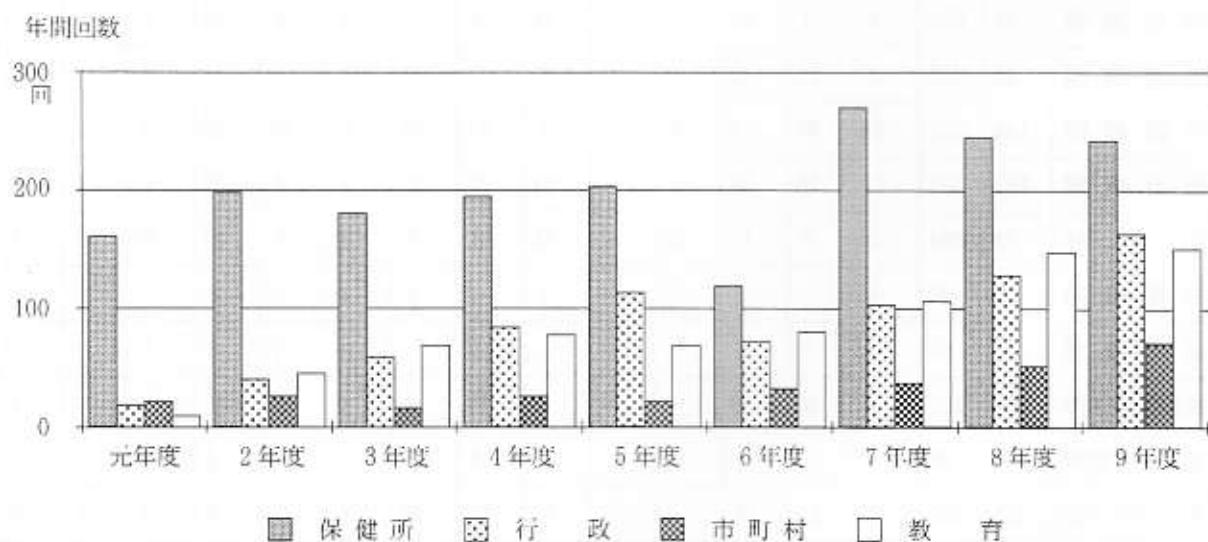


表4 平成9年度 こころの機動班事業（新規）

回	日 時	対 象 機 関・内 容	参 加 人 員	支 援 者
1	6/17(火)	名張市保健センター 「精神保健相談と事例検討会」	9人	医師 保健婦 ソーシャルワーカー
2	7/15(水)	大安町役場 社会福祉協議会 「痴呆老人の支援活動を考える」	19人	医師 心理士 保健婦
3	7/29(水)	海山町老人福祉センター 「痴呆老人の研修と事例検討」	11人	保健婦2名
4	8/19(火)	名張市保健センター 「精神保健相談と事例検討会」	7人	医師 心理士 保健婦
5	11/18(水)	名張市保健センター 「精神保健相談と事例検討会」	7人	医師 心理士2名
6	11/20(木)	員弁郡健康研究会 「事例検討会・保健室養護教諭の役割」	26人	心理士 ソーシャルワーカー
7	11/21(金)	勢和村役場 松阪保健所 「引きこもり事例への支援」	9人	医師 保健婦2名
8	1/13(火)	大安町役場 社会福祉協議会 「精神障害者への支援を考える」	15人	医師 心理士 保健婦
9	2/17(火)	名張市保健センター 「精神保健相談と事例検討会」	11人	医師 保健婦 ソーシャルワーカー

## 2. 教 育 研 修

(1) 研 修 会

(2) 実 習 生 の 受 け 入 れ

## 教育研修

昭和61年5月、県保健予防課分室として開設された当センターは、主に保健機関の職員を中心とした研修会を実施してきた。

平成元年4月1日付けで県の出先機関としてスタートし本格的に活動を開始した。三重県における精神保健の向上を図る総合的な技術中枢機関としての立場から保健関係外の関連諸機関をも対象とした研修を実施している。

平成9年度も、8本の柱で実施した。福祉、教育、医療、労働、司法等、精神保健福祉推進のため、関連のある機関との連携も教育研修を機としますますます深まってきている。

教育研修、見学、実習等の実施状況は表のとおりである。また、各々の教育研修については後に詳しく述べる。

### (1) 研修会

	教育研修名	実施日	受講対象	受講者数
①	新任精神保健福祉担当者研修会	平成9年5月30日(金)	市町村福祉・保健、県福祉事務所、保健所の関係者	61
②	児童思春期精神保健講座として 精神保健福祉事例検討会 児童・青年精神保健福祉研修会	平成9年10月25日(土) 〃	教育、福祉、医療、保健、精神保健 団体、その他の関係者	107 107
③	アルコール保健福祉研修会	平成9年7月10日(木)	福祉、医療、労働、保健、精神保健 団体、その他の関係者	89
④	地域精神保健福祉研修会	平成10年2月7日(土)	福祉、教育、医療、保健、精神保健 団体、その他の関係者	117
⑤	精神保健福祉専門講座 (精神保健福祉相談員継続研修会)	平成9年8月6日(月) 8月26日(水) 9月11日(火)	保健所精神保健福祉相談員、市町村 保健婦	延べ 94
⑥	老人精神保健福祉研修会	平成9年7月12日(土) 11月22日(土)	福祉、医療、保健、老人施設、その 他の関係者	203 210
⑦	社会復帰指導者研修会	平成9年9月～ 平成9年11月 月曜日 年 10回	保健所精神保健福祉担当者	延べ 26

計20回 1014名

## ① 新任精神保健福祉担当者研修会

精神保健福祉についての概要を理解し、地域に於ける精神保健福祉活動の推進を図る。

日 程	内 容
平成9年5月30日(金) 10:00~16:00	<p>◎ こころの健康センター事業概要 センター主幹 村 木 顕太郎</p> <p>◎ 講 義 「精神疾患のあらまし」 センター主幹 松 崎 ま み</p> <p>「精神保健福祉相談のすすめ方」 センター主幹 久 保 早百合</p> <p>「地域における精神保健福祉活動」 センター主幹 竹 内 貞 子</p> <p>「精神保健福祉のあらまし」 センター所長 原 田 雅 典</p>

## ② 児童思春期精神保健講座

児童精神保健福祉研修会・事例検討会を一連の講座とした。

児童思春期精神保健領域の専門家の専門知識の習得と対応技術の向上、及び連携のための技術習得とネットワークの推進を目的とした。岐阜県精神保健福祉センターと共催で実施。

日 程	内 容												
平成9年10月25日(土) 10:00~16:00	<p>◎ 講 演 「子どもが学校を休むときー親と教師と関係機関ー」 講師 椋山女子学園大学人間関係学部教授 長 岡 利 貞</p> <p>◎ 講 演 「児童期の精神的問題」 講師 名古屋大学教育学部教授 本 城 秀 次</p> <p>◎ グループケースカンファレンス</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>助 言</th> <th>事例発表者</th> <th>事例発表題名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>宝積己矩子 (宝積クリニック院長)</td> <td>籠谷 博子 三重県中央児童相談所</td> <td>「境界例と診断されている 不登校児の事例」</td> </tr> <tr> <td>長岡 利貞</td> <td>水谷 友則 岐阜県東濃児童相談所</td> <td>「中学生女子の不登校児の事例」</td> </tr> <tr> <td>本城 秀次</td> <td>水谷 久康 三重県立川越高等学校</td> <td>不登校(B. P. O)が疑われる) ソリューション・フォーカスト・ アプローチによる支援</td> </tr> </tbody> </table>	助 言	事例発表者	事例発表題名	宝積己矩子 (宝積クリニック院長)	籠谷 博子 三重県中央児童相談所	「境界例と診断されている 不登校児の事例」	長岡 利貞	水谷 友則 岐阜県東濃児童相談所	「中学生女子の不登校児の事例」	本城 秀次	水谷 久康 三重県立川越高等学校	不登校(B. P. O)が疑われる) ソリューション・フォーカスト・ アプローチによる支援
助 言	事例発表者	事例発表題名											
宝積己矩子 (宝積クリニック院長)	籠谷 博子 三重県中央児童相談所	「境界例と診断されている 不登校児の事例」											
長岡 利貞	水谷 友則 岐阜県東濃児童相談所	「中学生女子の不登校児の事例」											
本城 秀次	水谷 久康 三重県立川越高等学校	不登校(B. P. O)が疑われる) ソリューション・フォーカスト・ アプローチによる支援											



### ③ 地域精神保健福祉研修会

関係諸機関との連携のもとに、地域精神保健福祉活動が推進できるよう最近のトピックスをとりあげ知識の普及を図ることを目的とした。

今回は、精神障害者が地域で共に暮していきやすくするため、地域支援のあり方について学ぶ。

日 程	内 容
平成10年2月4日(土) 15:00~17:00	◎講 演 「私の分裂病研究」 浜田クリニック院長 浜 田 晋

### ④ アルコール保健福祉研修会

アルコール依存症は年々増加の傾向にあり、世界的にも大きな社会問題となっている。

また、アルコールに起因する問題は多岐に渡り多くの家族崩壊をきたしている。

アルコール依存症について適切な支援が展開できるよう関係者がその病理について正しく理解することが大切である。

アルコール依存症者の予防と早期治療をめざして、依存症者とその家族を支援していくうえで方策を考えることを目的とした。

日 程	内 容
平成9年7月10日(木)	◎講 演 「アルコールと遺伝」 講師 国立療養所久里浜病院院長 樋 口 進

### ⑤ 精神保健福祉専門講座（精神保健福祉相談員継続研修会）

精神保健福祉相談員の資質向上を図ることにより、地域精神保健福祉活動の推進に寄与することを目的とする。

日 程	10:00~12:00	13:00~16:00
8月6日(水) 10時~16時	「グループワークの技法」	日本女子大学 社会福祉学部 教授 増 野 肇
8月26日(火) 10時~16時	「精神障害と生活障害」 こころの健康センター 主幹(医師) 松 崎 ま り	「精神障害者の地域支援」 救護施設長谷山荘副荘長 小 田 毅
9月11日(木) 10時~16時	「精神保健福祉をめぐる 最近の動き」 こころの健康センター 所長 原 田 雅 典	「ケースマネジメント」 埼玉県立精神保健総合センター 作業訓練課長(医師) 野 中 猛 ◎事例提供者 津保健所保健婦 稲 垣 香

## ⑥ 老人精神保健福祉研修会

高齢者人口の増加に伴って、痴呆性老人の増加が予測されている。とりわけ、痴呆老人のケアは介護者の身体的、精神的負担が大きい。

一方、地域においては、家族の介護力が低下している現在、施設型サービスだけでなく在宅ケアサービスの充実強化が望まれている。

特有の精神症状や問題行動を起こす痴呆性老人とその家族のニーズにあった適切な支援ができるよう、地域における在宅ケアのあり方について考える。

日 程	内 容
平成9年7月12日(土) 15:00~17:00	<p>&lt;講 演&gt;</p> <p>座長 三重大学医学部 精神神経科助教授 井 上 桂</p> <p>「痴呆と禁治産」</p> <p>小山田記念温泉病院精神科 中 林 正 人</p> <p>&lt;特別講演&gt;</p> <p>座長 三重大学医学部 精神神経科教授 野 村 純 一</p> <p>「痴呆と遺言」</p> <p>宮崎医科大学 精神科教授 三 山 吉 夫</p>
平成9年11月22日(土) 15:00~17:00	<p>&lt;講 演&gt;</p> <p>座長 三重県こころの健康センター所長 原 田 雅 典</p> <p>「徘徊老人のこころ」</p> <p>三重大学医学部 精神神経科助教授 井 上 桂</p> <p>&lt;特別講演&gt;</p> <p>座長 三重大学医学部 神経内科教授 葛 原 茂 樹</p> <p>「高齢者への援助の視点」</p> <p>スーパーヴァイザー（対人援助職トレーナー）</p> <p>元東京都老人医療センター医療ソーシャルワーカー 奥 川 幸 子</p>

## ⑦ 社会復帰指導者研修会

保健所における社会復帰相談事業にかかわる職員の技術向上を図るため、さまざまな複雑困難な事例を対象に、技術的方法、処置、援助方法等を実習、理論的研修を通じて学び、今後の精神保健業務に幅広く対応できる職員の養成を図ることを目的とした。

実施方法は3ヶ月を1クールとして実施した。今年度の受講生は、次のとおりである。

桑名保健所	渥 美 信 子
伊勢保健所志摩支所	梅 原 健 治
熊野保健所	宮 本 浩 一

### 社会復帰指導者研修会プログラム

内 容	開催月	平成9年9月～11月
オリエンテーション		1(単位)
集団指導実習		13
生活技術指導実習		2
作業指導実習		3
専門講義		1
計		20(単位)

※1単位4時間とする。

#### 《精神障害者集団活動（デイケア）》

社会復帰指導者研修会の実習の場として、精神障害者集団活動（デイケア）を平成元年7月より実施している。実施要領は下記のとおりである。

#### ●日 的

在宅精神障害者に対し、個別、集団活動を通じて対人関係の改善、社会的習慣の確立、就労意欲の向上など、社会生活の自立を図る。

#### ●対 象

センター来所者及び保健所、病院などから紹介のあった者で、本人及び保護義務者の希望する者の中から、次によってセンターが決定する。

1. 精神障害の回復期にあたって、社会復帰をめざしている者。
2. 自宅より通所が可能な者。
3. 年齢15才以上で通所可能な者。
4. 定員は25人とする。

#### ●実施日時

毎週月曜日、午前9時30分～午後3時までとする。

#### ●期 間

期間は1年とする。ただし、通所期間を更新する場合は、1年毎に継続申込書を提出する。

#### ●実施場所

原則として、こころの健康センター内で行う。

#### ●費 用

参加費は無料。

ただし交通費及び昼食代、材料費、特別活動に要する費用は本人負担とする。

● 指導者

原則として、センターの職員をもって行うが、内容によっては外来講師及び一般協力者の参加を得て行う。

● 主な活動内容

1. 集団活動

プログラムの内容は、創作、スポーツ、料理、話し合い、野外活動等メンバーの話し合いにより決定する。

2. 個別相談

定期的に個別相談と随時家庭訪問を行う。

3. 会 議

- ・スタッフミーティング 毎週月曜日（午後3時30分～5時）
- ・通所決定会議（随時）

【申し込み→DC見学、インターク面接（家族同伴）→申込書提出→通所決定会議→結果通知】

4. 通所申込書、同意書

参加にあたり本人、家族より「通所申込書」・「同意書」（様式1・2）を得る。

5. 記 録

- ・デイケア業務日誌を作成する。
- ・個人の活動については「個人参加記録」に記入する。

● 平成9年度実施状況

1. 年間実施回数 43回（週1回）
2. 年間参加者数 延人数 440人  
実人数 31人
3. 平均1回当り参加者数 10.2人
4. 年令別参加者数

性別 \ 年令	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	計
男	3	3	3	2	4	3	2	20
女	3	1	2	3	1	0	1	11
計	6	4	5	5	5	3	3	31

5. 保健所管内別参加者数

桑名	鈴鹿	津	久居	松阪	上野	計
1	3	12	8	5	2	31

(2) 実習生の受け入れ

受講者名	実施回数	受講者数
日本福祉大学4年	1	1名
千葉大学医学部	1	1
三重大学医学部	4	29
三重県立看護短期大学	1	30

計 7回 61名

### 3. 協力組織の育成

- (1) 関係団体への協力援助
- (2) 精神保健ボランティア教室

## 協力組織の育成

### (1) 関係団体への協力援助

#### ① 家族会

##### (ア) 三重県精神障害者家族会連合会（三家連）

三家連は発足以来29年が過ぎようとしている。会員の高齢化や会員の確保などの問題を抱えながらも、地域においては、保健、医療、福祉等関係機関の連携強化に加えて、精神保健ボランティアの支援を得て、精神障害者の社会復帰など様々な活動への取り組みがなされている。

センターは家族会の育成とともに、こうした関係領域拡大と連携の強化を旨として指導援助を行った。

三家連の運営に関する指導助言はもとより、例年開催される、三家連精神保健福祉大会の企画、運営や三家連誌「あゆみ」の編集のほか、三家連が主催する「家族会リーダー研修会」への協力、三家連役員と所長の懇談会などを行っている。

##### (イ) 精神障害者地域家族会

県内の地域家族会は現在、病院家族会5ヶ所、地域家族会11ヶ所が活動している。昨年度までは地域家族会は8ヶ所であったが志摩、尾鷲、熊野管内に家族会が結成された全県下の拠点が網羅された。地域家族会の援助は、主に保健所において開催されている各家族会の定例総会への参加や、会独自で計画された研修への講師派遣等行ってきた。

平成4年度から平成9年度にかけて家族会が中心となり10ヶ所の共同作業所が開設され、地域の受け皿作りへの積極的な取り組みが行われてきたが、センターとして（保健所とともに）作業所を訪問し、処遇の個別相談や、情報提供、各関係機関との連絡調整の援助を行ってきた。

	回（件）数	対象者延人数
家 族 会	36	735

## ② リーダー研修会

保健所を拠点とした地域家族会活動の推進を図るため、平成2年度から表記の研修を開催している。今までは地域家族会を主体としていたが、病院家族会社会復帰関連施設職員も含め、精神障害者の社会復帰体制の整備を促進することを目標に研修を行った。

	研 修 内 容	参加者数および対象者
平成10年 1月21日 10:00~12:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク</li> </ul> メンバーの処遇面、家族会運営等、事前に作業所内で困っている問題点についてアンケート調査を実施し、当日3グループに分けグループワークを行った。	62名 共同作業所所長、指導員、家族会会員、社会復帰施設指導員等
平成10年 1月21日 13:00~15:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演「娘とともに」 泰山木の会 金田 貞子</li> <li>・講演「一人暮らしの可能性、 地域資源とネットワーク」 川崎市リハビリテーション医療センター 坂庭 章二</li> </ul>	対象者同上

## ③ アルコール関連組織（断酒会等）

三重断酒新生会は昭和47年に結成され、アルコール依存症の自助組織として独自の活動をおこなっている。6ブロック15支部で各々例会を開催している（月1回～4回）

又、AAグループ活動も津市で開催されている。

家族支援としては、「家族例会」が本部、中勢、上野、南勢地域で、アラノングループが桑名市で開催され地域に根ざした活動がおこなわれている。

Adult Child（AC）サポートグループとしては、2月に1回津市にて開催、体験交流や勉強会がされている。

地域においては、従来から「アルコール問題予防のためのネットワーク会議」が開催され、こころの健康センターも世話人の一人として参画している。

平成9年度の協力援助状況は次の通りである。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・連続講座「アルコールと遺伝」 講 師 樋 口 進 先生（国立療養所久里浜病院院長）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルコールネットワーク 3回</li> </ul>



## (2) 精神保健ボランティア教室

### 目 的

精神障害者の治療や、社会復帰に対する考え方は、従来の入院治療中心から、地域精神医療へと次第に視点を移してきている。

このような状況のもとでは、社会資源をいかに有効に活用するかが精神障害者の社会復帰を促進していくうえで重要な要素となる。特に人的資源について考えるなら、地域に根ざした生活の場（共同作業所や回復者クラブ、共同住居等）が志向されている現在の状況のもとでは、専門家集団による力だけでは、その目的は達しえない。むしろ広く、人的資源を求めていくことで、これを支え、押し進めていくことができるものと期待されている。

そこで、このような人材を精神保健ボランティアとして、育成していくことを目的として、ボランティア教室を開催するものとする。

### 実施結果

#### (ア) 精神保健ボランティア教室

実施日	内 容		参加数
第1回 8月7日(木)	開講式 オリエンテーション 自己紹介	講義「ボランティア活動とは？」 三重県社会福祉協議会地域福祉部主査 藤田勝義	25
第2回 8月21日(木)	心理トレーニング「よりよい出会いのために」 三重県こころの健康センター主幹 (臨床心理士) 久保早百合		26
第3回 9月4日(木)	講義「ライフサイクルと心の健康」思春期・青年期 三重県こころの健康センター主幹 (精神科医) 松崎まみ		25
第4回 9月18日(木)	講義「ライフサイクルと心の健康」中年期・老年期 三重県こころの健康センター所長 (精神科医) 原田雅典	当事者からの メッセージ	23
第5回 10月2日(木)	講義「地域における精神保健福祉活動について」 三重県こころの健康センター主幹 (保健婦) 竹内貞子	施設見学実習 の説明	20
第6回 10月	施設見学実習 (精神障害者共同(小規模)作業所・保健所デイケアなど)		24
第7回 11月6日(木)	座談会 施設見学実習をして… -体験実習の情報交換と精神障害者に対する新たな思いについて-		21
第8回 11月20日(木)	精神保健ボランティアグループの活動紹介 座談会 今考えよう、私たちのできること、「これからの活動」 閉講式		20
述べ参加者数			184

(イ) 同窓会

実施日	内 容	参加数
10年3月17日(火)	教室終了後の近況について 今後の会の活動について	9

結 果

(ア) 教室出席率

教室の参加状況を見ると30～40代の者は、出席率が悪く、就労等で中断していく者も40代の者であった。(表1)

(イ) ボランティア活動者数

教室終了後のボランティア活動状況を見ると、50～60代に多いことが分かる。特に60代以上の男性では教室への出席数、ボランティアへの定着者が共に多かった。(表2・3)

表1 性別・年代別・教室出席回数

		8回	7回	6回	5回	4回↓
～20代	男					
	女		4	1		
30代	男					
	女	2	1			2
40代	男					
	女		1		1	3
50代	男	1				
	女	3	2			1
60代～	男	3				
	女	2	2			
計	男	4				
	女	7	9	1	1	6

表2 終了後のボランティア活動参加者数

		活動参加者数	今後活動希望者
～20代	男		
	女		2
30代	男		
	女		
40代	男		
	女		
50代	男	1	
	女	1	2
60代～	男	2 (1)	
	女	2 (2)	2
計	男	3 (1)	
	女	3 (2)	6

※ ( ) は教室受講前より活動していた者

表3 終了後の状況

内 容	人 数	内 容	人 数
すでに活動していた	3	活動したいがまだ開始してない	6
新たに活動開始	3	就労、家事等で活動はできない	8
教室受講中断者 3名		他のボランティア活動を開始	3
		連絡とれない	3

(ウ) 教室受講による効果

精神障害者のイメージについてアンケートの結果、1回目では1位の「敏感」だけが66.7%で半数をこえているが、他のイメージは分散されている。一方、7回目では、1位「敏感」65.0%、2位「気をつかう」「普通の人と変わらない」60.0%、3位「まじめな」「やさしい」55%と肯定的イメージを持つものが増えている。また、「こわい」「変わっている」「暗い」の否定的イメージは減少傾向になっていることがわかる。(表4)

表4 教室受講による精神障害者のイメージの変化

(複数回答)

項目	数	率	項目	数	率	項目	数	率
変わっている	5	20.8	暗い	5	20.8	やさしい	4	16.7
	3	15.0		4	20.0		11	55.0
まじめな	7	29.2	気が変わる	9	37.5	敏感	16	66.7
	11	55.0		7	35.0		13	65.0
にぶい	1	4.2	正直	5	20.8	普通の人とか わらない	4	16.7
	3	15.0		8	40.0		12	60.0
気をつかう	9	37.5	こわい	2	8.3	※上段 第1回目 N=24 下段 第7回目 N=20		
	12	60.0		1	5.0			
明るい	2	8.3	おひとよし	0	0			
	2	10.0		2	10.0			

考察及び課題

(ア) 受講者の受け付けを、ボランティアが実践できるものと限定して行った。しかし、実際の参加者は約1/4が知識を得るためと第1回教室でのアンケートで答えており、電話受け付け時点でのチェックの方法について今後は検討が必要である。

(イ) 教室参加状況、ボランティア活動参加状況をみると、共に50代、60代の者が参加状況よい。教室終了後、新たに精神保健ボランティアとして活動を開始したものは、平成9年度末で3名しかなく、受講生の約1割にしかすぎない。

そして、精神保健ボランティアとして活動未開始の者は、センターから本人の活動希望場所に連絡をとり繋いだにもかかわらず本人が活動に踏み切れないということが同窓会時の発言から分かった。

一連のプログラムの中でボランティアとして習得してほしい知識、意識を持たせることは出来たと思われるが、教室終了後にスムーズに活動に参加していけるようボランティア活動について情報提供の仕方や実習の仕方について検討が必要である。

(ウ) 教室全体を通し、精神障害者に対するとらえ方の変容が見られた。「精神障害者も自分たちと変わらない」という風に意識化され、障害者理解に対する啓発という点での効果は大きかったといえる。

## 精神保健ボランティア教室修了者の活動状況

当センターの精神保健ボランティア教室修了者の中から「至心会」という精神保健ボランティアグループが平成2年1月に結成され、平成4年10月には「三重てのひら」と改称しボランティア活動を続けている。

当初は、こころの健康センター事業への協力、地域家族会への支援が中心の活動であったが、平成5年度は、精神障害者共同（小規模）作業所「工房T&T」開所に向けての資金作り、家屋の提供など積極的なボランティア活動を展開し開所に至らせた。またそのほかに平成7年1月発生した阪神大震災では、救援物資を集めて送る等のボランティア活動も熱心に行われた。このような活動の功結が認められ平成7年12月5日の第28回精神保健三重県大会において三重県精神保健協議会会長表彰を受けた。

現在、会員は男女あわせて83名で桑名から志摩までの広い地域にわたっており、主に地域の共同作業や保健所のデイケア等で活動をしている。

### （具体的な活動内容）

- ・ 精神障害者の家族会活動への協力
- ・ 共同作業所への支援
- ・ こころの健康センターや保健所の実施している社会復帰事業への協力
- ・ 精神保健福祉に関する各種研修会への参加及び協力
- ・ 総会、役員会、例会の開催
- ・ 会報「三重てのひら」の発行
- ・ 広報、啓発活動
- ・ ボランティア資金獲得活動（バザー）
- ・ 他のボランティアグループとの交流

## 4. 精神障害者福祉推進事業

- (1) 精神障害者就労相談
- (2) 精神障害者自立援助
- (3) 社会復帰関連施設支援

## 精神障害者福祉推進事業

精神保健の施策は、昭和62年及び平成5年の法律改正により、精神障害者の人権に配慮した適正な精神医療の確保や、社会復帰の促進を図るため様々な措置が講じられ、平成5年12月に障害者基本法が成立し精神障害者が基本法の対象として明確に位置づけられ、これまでの保健医療施策に加え、福祉施策の充実を図ることが求められることとなった。

さらに平成7年5月には精神障害者の福祉施策や地域精神保健福祉施策の充実を図ること等を目的に「精神保健法」から「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」に改正され、精神障害者の自立と社会参加のための援助という福祉の要素が位置づけられた。こうした状況を踏まえ、こころの健康センターでは、精神障害者福祉推進事業とし (1)精神障害者就労相談 (2)精神障害者自立支援 (3)社会復帰関連施設支援の事業を行ってきた。

### (1) 精神障害者就労相談

平成8年度の精神障害者就労相談は就労準備教室として実施したが、今年度はその成果を元に就労前の実習体験（仮称…グループアルバイト）を計画した。この事業を実施するにあたり、頭を痛めたのがこの事業を理解しメンバーを雇ってくれる雇用先の開拓と、対象者の選定であった。週1回、2時間、できるだけ来客の少ない所で、いつ休むかしない、という身勝手な条件であったが、センターから5分ほどの所に「ミスタージョン株式会社」久居店があり、その理解と、協力で3月末ようやく開始の運びとなった。

	回（件）数	対象者延人数
グループアルバイト	3	3

成果、問題点については次回の所報にて報告したい。

## 《精神障害者就労相談（グループアルバイト…仮称）》

### ● 目 的

精神障害者にとって現代社会の就労環境は厳しく、また就労できたとしてもストレスを高め失敗体験を繰り返すケースが多い。デイケアや作業所では適応しているケースでも、一人で社会に飛び込む体験はかなりの勇気と自己管理が必要であり、仲間とともに関係者が支え、安心して就労体験が出来る機会を設ける。

また、メンバーが実社会に触れる機会のみならず、このアルバイトを通し、雇用主はじめ関係者の理解を得る機会とする。

### ● 対 象

在宅の精神障害者で、同一のデイケア、作業所に通所している2人以上のメンバー。

### ● 実施主体

三重県こころの健康センター

### ● 協力機関

ボランティア、関係企業

### ● 実施内容

1. 実働は最高でも1日2～3時間とし、心身の負担とにならない程度とする。
2. メンバーは2人以上、ボランティア、センター職員で構成する。  
デイケア、作業所のメンバーがこの事業に参加する時、所属職員1名の参加を原則とする。
3. アルバイト料は雇用主との協議とする。

## (2) 精神障害者自立援助

### 目 的

精神障害者の自立と社会参加を目指した、精神保健および精神障害者福祉の総合的な社会復帰対策が始まっている状況の中で、各地で精神障害者自身が自ら福祉や保健・医療対策の向上に向けて様々な取り組みが始まっている。

地域の中でたくましく生活している仲間が交流する事により、精神障害者の自立と社会復帰、社会参加の促進を図る。

### 実施結果

#### (ア) オレンジハートクラブ

毎週金曜日はセンターの第1デイルームをデイケアのメンバーに開放しており、少数のメンバーが利用していた。これを当事者交流会に発展させ、自主活動をしていけるよう働きかけた。当初よりメンバーが自由に出入りし、自由に過ごす憩いの部屋として利用されていた。

そこで、グループ化を意識させるため参加メンバーでグループ名を考えてもらい「オレンジハートクラブ」と名付けた。

また、グループ活動としてメンバーで企画したレクリエーションを今年度は4回実施した。

### 活動状況

回数	延べ参加数	平均参加数	内 容
52	280	5.4	カラオケ、将棋、雑談、絵画など

### グループ活動（再掲）

年 月 日	参加数	内 容
9. 7. 11(金)	5	デイルームにて食事会（焼き肉）
9. 10. 18(土)	7	カラオケボックス、食事会
9. 11. 21(金)	7	クリスマス会発表にむけてハンドベル練習
9. 12. 21(日)	7	デイルームにて食事会（すき焼き）

#### (イ) 県内の当事者会交流会

県内の当事者会のメンバー同志の交流をはかり、それぞれの会の発展につなげると共に当事者が自分たちの意見を発言していくために意見をまとめる場として開催した。

そして、今まで当事者ぬきで行われていたフェスティバル反省会に代表者3名が出席し当事者の意見を発言することができた。

年 月 日	参加数	内 容
9. 11. 14(金)	15	各当事者会の活動報告 フェスティバルの反省 今後の交流会について

参加者内訳	みのり会	5名
	仲間会	3名
	オレンジハートクラブ	4名
	工房T&T	3名

### 考察および課題

#### (ア) オレンジハートクラブ

開放口の憩いの部屋の利用という流れで成立してきているため、グループで自発的に計画を立てて活動するということが難しかった。

そこで、スタッフがバックアップしながらレクリエーションの企画を立て実施してきたというのが現状であった。

平成9年度は、メンバーがグループ名を決め、会への所属感を持つことが出来たが、会の目標など共通認識すべき事項について深められておらず今後、定例的に例会を持ち話し合っ



て行く必要があると思われる。

また、就労している者もあり金曜日に一同が会することということが難しいという現状があるため、今後は休日に定例会を開催する必要があると考えられる。

(イ) 県内の当事者会交流会

互いの当事者グループの情報交換が熱心に行われ、活動について互いの刺激になったと思われる。

また、こころの健康づくりフェスティバルの企画会議等で今まで当事者が発言する機会を与えられていなかったが、今回初めて反省会に参加してもらい当事者会交流会で話し合ったことを自分たちの意見として発言した。

今後も、当事者自身が受け身の立場にではなく、一緒に自分たちも出来る部分はやっていく（社会参加していく）ことを推進していく必要がある。

(3) 社会復帰関連施設支援

昭和59年に県内初の小規模作業所が出来て以来、序々に社会復帰関連施設が出来てきている。特に平成9年度は、中南勢地域に5か所の施設が設立（表1）された。そこで平成9年度は、新設施設を中心に技術指導援助を目的に実施した（表2）。

表1 平成9年度設立 社会復帰関連施設

施設	設立月日	住所	設置主体
生活訓練施設「ひまわり」	9年5月	松阪市下村字覚部2203-1	社会福祉法人「愛恵会」
通所授産所「あけぼの園」	9年5月	松阪市下村字覚部2203-1	
小規模作業所「陽だまり作業所」	9年4月	一志郡嬉野町大字須賀	美土里福祉会
小規模作業所「かすみ園芸」	9年4月	津市安東町字茨2221	病院家族会「のぞみ会」
小規模作業所「ふれあい工房」	10年1月	阿児町鶴方3195	地域家族会「みしま会」

表2 社会復帰関連施設支援状況

施設名	実施回数	参加人数	活動状況一言
ワークルーム染友	3回	37人	多彩なボランティア活動に支えられた活発な作業所
四季の里	3	187	福祉法人社会復帰施設、地域支援センターが付置
みのり工房	1	9	クラブハウスをめざし再出発、1年後が楽しみ
オレゴン	1	8	四口市の玄関にあり、弁当づくりや喫茶作業が主業
わかば共同作業所	6	25	県下最初の作業所、福祉職専門指導員を採用
すずわの家	3	31	福祉の店「バレット」管理、看護職指導員採用
いすず工房	3	14	パン作り作業と販売が主、最近内職的作業加わる
かすみ園芸	8	27	苗木栽培が主、メンバー少なく今後に期待
I.房T&T	6	77	若いメンバー多く活気あり、充実した作業所
松阪工作所	2	52	当事者の会を組織し、作業種目も多種類
ふるさと工房	3	20	家庭的な作業所、指導員募集して枠を広げたい
太陽工作所	3	56	法人化をめざす。作業活動を重視、指導員は看護職
陽だまり作業所	6	40	知的障害作業所と併設、ユニークな作業指導方法
竹の子荘	1	7	良い管理人のもと、安心して住める場となっている
ひまわり	2	5	松阪厚生病院デイケアに通所、社会復帰をめざす
その他	4	12	あけぼの園、夢の里、サルビア会館、長谷山荘等
計	55回	607人	

## 5. 広 報 ・ 啓 発

- (1) センターだより「こころの健康」の発行
- (2) 所報「こころの健康センター所報」平成8年度版発行
- (3) 講演会・講義・座談会等
- (4) 心の健康づくりフェスティバル

## 広報・啓発

### (1) センターだより「こころの健康」の発行

今年度も、3回（No32～34）発行した。各号の内容は、下記のとおりである。

発行年月日	内 容	執筆者(敬称略)
<No.32> 平成9年 7月15日	特集：はばたけ、当事者 巻頭言「セルフヘルプへの旅立ち」 回復者途上者クラブ「みのり会」 工房T&T「同好会」 松坂工作所「仲間会」 オレンジハートクラブ 施設紹介 精神障害者小規模作業所「かすみ園芸」 精神障害者小規模作業所「陽だまり」 ペンリレー「私の心の健康法」 平成9年度技術研修計画	鈴鹿厚生病院神経科医長 森本 義典 みのり会会長 樋口 貞治 同好会メンバー 仲間会メンバー オレンジハートクラブメンバー  かすみ園芸所長 松田 佳子 陽だまり所長 西井 英夫 岡野 艶子
<No.33> 平成9年 10月15日	特集：子どもの心のケア スクールカウンセラーと こころのカウンセラー 巻頭言「スクールカウンセラー活用調査研究校の 取組みについて」 「生きにくさを抱えた子供たち」 「学校におけるカウンセリング —こころのカウンセラーの経験に基づいて—」 「学校におけるカウンセリング」 「高校生へのカウンセリングを通して」 「学校におけるカウンセリング」 「生徒を取り巻く環境が与える影響について」 施設紹介 援護寮「ひまわり」・通諸授産施設「あけぼの園」 ペンリレー「私の心の健康法」	県教育委員会事務局指導課 スクールカウンセラー 鶴飼 貞波  こころのカウンセラー 佐藤 貴志 スクールカウンセラー 瀬島美保子 スクールカウンセラー 千草 篤磨 スクールカウンセラー 橋本 敬 こころのカウンセラー 二ノ村玲子  P S W 河川 尚子 村山 みよ
<No.34> 平成10年 2月16日	特集：アダルトチャイルド 巻頭言「アダルトチャイルド—概念と周辺—」 「小児科医の経験したアダルトチルドレン」 「児童虐待の現状と課題」 「犬の暴力とその被害女性たち」 「アダルトチャイルドへの保健婦の支援について」 「A Cの支援グループWings」 「私の回復」 家族会紹介 「ほうれんそうの会」 「くまの会」 「こころのよりどころとしてのくまの会」 ペンリレー「私の心の健康法」	県立高茶屋病院 大越 崇 鈴鹿中央総合病院 西 英明 中央児童相談所 伊倉日出一 婦人相談所 板谷 正枝 上野保健所 山口 敦子 県立高茶屋病院 杉野 健二 Wingsメンバー 宮崎ユキ子  ほうれんそうの会会長 三谷 環 熊野保健所 中谷まゆみ くまの会会員 若井 克代 榎田 義照

配布については、発行時のみでなく研修等や依頼に応じて、随時追加配布している。今年度は特にNo.34の追加配布依頼が多く、アダルトチャイルドについての関心の高さが窺えた。

(2) 所報「こころの健康センター所報」平成8年度版の発行

平成9年10月に1000部発行し、関係諸機関へ配布した。

(3) 講演会・座談会等

精神保健に関する知識の普及啓発を目的とし、関係諸機関からの要請により実施した。

今年度の講演等の実施回数は66回で、対象者は2,210名であった。講演等の内容は、ライフサイクルにおける心の健康、職場や地域における精神保健、精神障害者の社会復帰など多岐にわたっている。

また、派遣先もその領域が広がり、多方面からの要請が増え、今後ますますセンターへの期待が大きくなっていくことが予想される。

	老人精神保健	思春期	アルコール	社会復帰促進	その他	計
保 健 所		1		11	5	17
		55		253	121	429
福 祉 機 関	1		1		5	7
	32		21		106	159
行 政 機 関		1			1	2
		42			350	392
教 育 機 関		5			2	7
		162			75	237
市 町 村	1			4	7	12
	11			117	194	322
そ の 他	3	1		5	12	21
	73	21		200	377	671
計	5	8	1	20	32	66
	116	280	21	570	1223	2210

※上段 回数

下段 人数

講演会、講義、座談会等

月 日	名 称	内 容	対 象 者	主 催	派遣者
H. 9. 4. 17	家族会設立10周年記念大会	講演「障害者と共に暮らす」	当事者、家族、ボランティア、他 80名	松阪地域家族会 まつの会	医師
5. 14	母親学級	講演「子供の心の発達の仕事とそれを支える母親の役割～乳幼児期まで～」	住民（母親教室参加者） 25名	菟野町役場	保健婦
6. 7	両親学級	講演「父親の子育て参加について」	保護者 40名	草生幼稚園	心理士
6. 26	民生委員啓発のための研修会	講演「精神障害者を地域で支えるために」	民生委員、他 31名	青山町健康管理センター	医師
7. 1	精神保健ボランティアグループ例会	講演「精神保健ボランティア活動について」	ボランティア 7名	三重てのひらの会	保健婦
6. 25	精神保健ボランティア家族会継続研修会	演習「体験、仲間とは、家族とは、出会いは元気のできる特効薬」	精神保健ボランティア家族会会員、他 14名	桑名保健所	心理士
6. 30	訪問看護婦養成講習会	講演「高齢者のこころの健康」	訪問看護婦養成講習参加者 28名	三重県看護協会	保健婦
6. 30	全体研究会	講義「生徒たちの“心の訴え”をどのように受け止め理解していくのか？」	桑名市立光陵中学校教諭 26名	桑名市立光陵中学校	心理士
7. 10	第8回健康づくり	講演「地域における精神保健について～精神障害者を理解するために～」	町民 38名	海山町役場	医師
7. 18	健康づくり講座“心の健康”	講義「ライフサイクルと心の健康」	健康づくり講座受講生 25名	みえ社会保険センター	医師
7. 24	三重県市町村保健婦研修会	講演「更年期のメンタルヘルス」	市町村保健婦 34名	三重県市町村保健婦協議会	医師
7. 29	ヘルパー・保健婦研修会	講義「老人性痴呆について」「老人性痴呆のかかわり方」	ヘルパー・保健婦 11名	海山町役場	保健婦
8. 22	母親学級	講演「子供の心の発達」	住民 27名	菟野町役場	保健婦
8. 22	家族教室	講演「三重県の精神障害者小規模作業所について」	教室生、他 4名	尾鷲保健所	医師
8. 31	三重県難病団体連絡協議会総会	講演「心のケア」	三重県難病団体連絡協議会会員 50名	三重県難病団体連絡協議会	医師
9. 3	精神保健ボランティアスクール	講演「精神障害者に接するときのポイント」	ボランティア教室受講生、他 18名	青山町健康管理センター	心理士
9. 10	家族会研修会	講義「作業所づくりについて」	家族会会員、ボランティア、他 30名	鳥羽志摩地域家族会	保健婦
9. 13	家族教室セミナー	講演「親と子のあいだで失われたものの回復をめざして～乳幼児編～」	保護者 20名	安濃町公民館	心理士
9. 17	桑名精神保健ボランティア教室	講演「地域で精神障害者を支えるということ」	ボランティア教室受講生、他 20名	桑名保健所	保健婦
9. 20	思春期教室	講演「思春期の子どもの心を考える」	管内小、中学校保護者学校関係者、他 55名	伊勢保健所	心理士
9. 24	訪問看護婦研修会	講演「老人のこころ」	研修生 20名	三重県看護協会	保健婦
9. 24	家族教室	講演「精神疾患と精神障害者の理解のために」	精神障害者家族、ボランティア27名	上野保健所	医師

月 日	名 称	内 容	対 象 者	主 催	派遣者
10. 7	精神保健ボランティア教室	講演「こころに病をもつ人への関わりとは」	受講生 15名	四日市保健所	心理士
10. 9	中勢地区青少年行政連絡協議会	講演「今日的な青少年の心の問題」	中勢地区青少年行政連絡協議会委員 42名	津地方県民局	医師
10.16	こころの健康講座	講演「精神保健とはライフサイクルとこころの健康」	市民 32名	名張市社会福祉協議会	医師
10.21	精神保健ボランティア教室	講演「ボランティア活動とは」	ボランティア受講生 19名	伊勢保健所志摩支所	心理士
10.21	精神保健ボランティア教室	講演「精神障害とは」	ボランティア受講生 19名	伊勢保健所志摩支所	医師
10.22	職員研修	講演「精神的ストレスによる症状と対処について」犯罪被害者の援助のために	警察署員 40名	亀山警察署	医師
10.27	精神保健ボランティア教室	講演「精神障害への接し方」	ボランティア受講生 18名	津保健所	心理士
10.29	四日市在宅栄養士研修会	講義・演習「サイコドラマを通してカウンセリングを学ぶ」	四日市在宅栄養士 20名	四日市在宅栄養士会	心理士
11. 5	こころの健康講座	講演「心のやすらぎ」演習	講座受講生 28名	名張市社会福祉協議会	心理士
11. 6	家族会設立集会	講演「こころにやさしい社会」	家族会会員、ボランティア、地区住民、他 70名	四日市ほうれん草の会	医師
11. 8	保母研修会	講演「子どものこころの発達」	保母、保健婦 15名	宮川保育園	ソーシャルワーカー
11.11	母子推進員研修会	講演「子どもの心を育む」	母子推進員、他 24名	津市保健センター	保健婦
11.11	精神保健福祉ボランティア教室	講義「ボランティア活動に役立つ人間関係」	ボランティア教室受講生 16名	伊勢保健所志摩支所	心理士
11.12	第3回健康づくり推進員研修会	講演「心の病気について」	健康づくり推進員等 30名	小俣町役場	医師
11.14	職員研修	講義「少年の心 II」 「カウンセリング技術について」	警察官少年課担当 13名	京警察少年課	心理士
11.18	精神障害研修会	講演「精神障害者の処遇と問題点について」 「アルコール依存症患者への対応の留意点及び支援方法について」	伊賀福祉事務所、管内市町村福祉担当者 21名	伊賀福祉事務所	保健婦
11.20	三重大学医学部視察研修	講義「最近の精神保健について」	三重大学医学部学生、教官 8名	三重大学医学部	医師
11.20	研修視察	講義「こころの健康センター概要」事例検討	員弁郡健康研究会会員 26名	員弁郡健康研究会	ソーシャルワーカー 心理士
11.25	母親学級	講義「子供の心の発達」	住民 36名	菰野町役場	保健婦
12. 2	ヘルスアップ教室	講演「女性のメンタルヘルス」更年期を中心に	伊勢市民 49名	伊勢市保健センター	医師
12. 3	津市公立保育園園長会研修会	講演「相談に見られるいまどきの親像とその親に対するカウンセリングの心得」	公立保育園園長、福祉課担当者、療育センター職員 13名	津市公立保育園園長会	ソーシャルワーカー

月 日	名 称	内 容	対 象 者	主 催	派遣者
12. 6	PTA学習会	講演「思春期の子どものこころ」	PTA会員 50名	津市一身田中学校	心理士
12. 7	定例研修会	講義「精神保健福祉をめぐる」	会員等 30名	三重県臨床心理士会	医師
12. 8	精神保健ボランティアスクール	講演「地域における精神保健福祉活動について」	精神保健ボランティア スクール生 18名	鈴鹿市社会福祉協議会	ソーシャル ワーカー
12.11	第3回研修会	講演「精神障害者に対するケアについて」	会員 60名	県ホームヘルパー協議会中勢支部	医師
12.24	尾鷲市適応指導教室研修会	講演・グループワーク 「思春期の子どもについて」	保護者、他 8名	尾鷲市適応指導教室	心理士
H10. 1.19	訪問看護婦養成講習会	講演「高齢者のこころ」	訪問看護婦養成講習会受講生 25名	三重県看護協会	保健婦
1.19	精神保健研修会	講演「精神障害者を理解するために」	管内行政機関職員 47名	桑名保健所	医師
1.23	健康づくり講座	講演「ライフサイクルと心の健康」(中高年の心の健康)	講座受講生 7名	みえ社会保険センター	医師
1.26	痴呆学習教室	講演「メンタルヘルスで痴呆予防を」	住民、ヘルパー 32名	島ヶ原村社会福祉協議会	保健婦
1.27	虐待防止シンポジウム	シンポジウム「機関連携を考える」	保健・医療・福祉・教育・保育関係者 350名	児童虐待防止会議	医師
1.28	こころの講演会	講演「こころの病気と障害」	保護者、他 35名	伊勢保健所志摩支所	医師
1.28	こころの講演会	講演「こころの病気を持つ人の社会参加を考えよう」	保護者、他 35名	伊勢保健所志摩支所	ソーシャル ワーカー
1.31	PTA研修会	講演「幼児期の心の成長と親の関わり」	保護者 35名	安濃町立明合幼稚園	心理士
2. 2	精神障害者家族交流会	講演「家族のかかわりについて」	家族、他 20名	津保健所	ソーシャル ワーカー
2. 3	メンタルヘルスマネジメント研修会	講演「職場のメンタルヘルスマネジメント」	管内所属長 18名	熊野保健所	医師
2. 5	桑名適応指導教室保護者会	講義「不登校の子どもへの自立に向けて」	保護者、他 6名	桑名市教育研究所	心理士
2. 6	ボランティアひまわり会講演会	講演「精神障害者への接し方」 ボランティア活動の実際	ボランティア 13名	熊野保健所	医師
2.17	地域リハビリテーション養成研修会	講演「訪問による面接の基本」	市町村保健師・訪問看護師・ ホームヘルパー・在宅介護 支援センター職員 54名	松阪保健所	心理士
2.19	母親学級	講演「子どもの心の発達について」	妊婦、他 13名	菟野町役場	保健婦
2.20	精神保健ボランティアでのひら例会	講義「家族のこころ、メンバーさんのこころ」	でのひら会員 8名	三重でのひらの会	ソーシャル ワーカー
2.20	家族会勉強会	講演「最近の精神科治療について」	当事者、家族、ボランティア 22名	松阪地域家族会 まつの会	医師
2.28	教育講演会	講演「今、子どもの心を育むために」	保護者、教員 80名	北勢町十社小学校	ソーシャル ワーカー
3.12	研修会	講演「心の傷をめぐる」	会員 60名	日本精神科看護協会三重支部	医師

合計 66回 延べ2210人



#### (4) 第7回こころの健康づくりフェスティバル

こころの健康づくりフェスティバルは、県内の社会復帰施設、共同作業所のメンバー、保健所、病院、センターデイケア等地域社会の中で生活し、社会復帰を目指す精神障害者の人々が一堂に集まり、家族、ボランティア、各関係機関の参加のもとスポーツ・レクリエーションなどを通して交流し、互いの理解を深め、社会復帰を図ることを目的として平成9年10月4日久居市総合体育館にて実施した。

フェスティバルの成果をより高めるためデイケア実施保健所、病院等、40の関係機関からなる実行委員会を設置し、具体的な内容、準備等について検討を行い当日は500名近い参加者となった。回を重ねる毎に年1回のフェスティバルを心待ちにしてくれている人や、団体間交流の場ともなっている。

	日 時	場 所	参加人員
第1回実行委員会	平成9年6月26日	こころの健康センター	42
第2回実行委員会	平成9年7月24日	こころの健康センター	41
こころの健康づくりフェスティバル	平成9年10月4日	久居市総合体育館	500

久居市総合体育館にて開催された「こころの健康づくりフェスティバル」の様子。



○×式のクイズで左右に分かれて  
正解を競う参加者ら＝久居市内で

中でぞう  
つなどの  
病気を治療  
し、社会復  
帰を目指し  
ている人た  
ちの交流や  
理解を深め  
ようと毎年  
開かれてい  
る運動会。  
ことしで七  
回目にな  
る。

県内の保  
健所や病院  
のデイケ  
ア、共同作  
業所、社会復帰施設などに  
通う人たちや職員、ボラン  
ティアら約五百人が参加  
し、軽スポーツやクイズを  
楽しんだ。一回目の参加者  
は約二百人だったが、精神  
保健施設の充実に伴って毎  
年増えているという。

プログラムは、パン食  
競走や玉入れ、フォークダ  
ンスなど、地域社会の

第7回 こころの健康づくりフェスティバル

地域社会参加にむけての交流の場

**こころの健康づくり**

**フェスティバル**

平成9年  
**10/4** 土  
AM10:30~PM3:00

こころの扉を開いて、  
光の中へ飛び出そう。



- ◆プログラム
- 10:00- 受付
  - 10:30- 開会式
  - 11:00- テーブル・展示開始  
[ソートンテーブル・フォルトラフェイス その他]
  - 12:00- 昼食・音楽
  - 13:00- テーブル・展示開始  
[ソートンテーブル・フォルトラフェイス その他]
  - 14:45- 閉会式
- ◆主催者
- こころの健康づくりフェスティバル実行委員会  
◆サポーター賛助会館  
[協賛 西白河 内原 湯 永原 松尾 伊賀 尾花 上野 瓦屋 長瀬]  
◆サポーター賛助団体  
[協賛 西白河 内原 湯 永原 松尾 伊賀 尾花 上野 瓦屋 長瀬 西白河日赤病院 松尾厚生病院 松尾厚生病院 上野病院 松尾中央総合病院 尾花病院 西野クリニック]  
◆共賛助会館  
[協賛 西白河 内原 湯 永原 松尾 伊賀 尾花 上野 瓦屋 長瀬 西白河日赤病院 松尾厚生病院 松尾厚生病院 上野病院 松尾中央総合病院 尾花病院 西野クリニック]  
◆共賛助会館  
[協賛 西白河 内原 湯 永原 松尾 伊賀 尾花 上野 瓦屋 長瀬 西白河日赤病院 松尾厚生病院 松尾厚生病院 上野病院 松尾中央総合病院 尾花病院 西野クリニック]  
◆共賛助会館  
[協賛 西白河 内原 湯 永原 松尾 伊賀 尾花 上野 瓦屋 長瀬 西白河日赤病院 松尾厚生病院 松尾厚生病院 上野病院 松尾中央総合病院 尾花病院 西野クリニック]  
◆共賛助会館  
[協賛 西白河 内原 湯 永原 松尾 伊賀 尾花 上野 瓦屋 長瀬 西白河日赤病院 松尾厚生病院 松尾厚生病院 上野病院 松尾中央総合病院 尾花病院 西野クリニック]
- ◆協賛企業  
三重県こころの健康センター  
久居市総合体育館



協力企業

- 江崎グリコ株式会社中部統括支店三重営業所様
- 井村屋製菓株式会社様
- 富士カントリー榎原温泉ゴルフ倶楽部様
- 株式会社 おやつカンパニー様
- 東和化工株式会社様
- 雪印乳業株式会社様

- サンジルシ醸造株式会社様
- 三重ヤクルト販売株式会社様
- 大成印刷株式会社様
- 三重耕農社様
- 丸英陶器株式会社様

## 6. 精神保健福祉相談

- (1) 精神保健福祉相談
- (2) 思春期講座

項目	内容
1. 精神保健福祉相談	精神保健福祉相談員による相談業務
2. 思春期講座	青少年に対する精神保健に関する講座

# 精神保健福祉相談

## (1) 精神保健福祉相談

精神保健福祉相談事業は、「こころの健康相談」（来所相談）と「こころのテレフォン相談」（電話相談）に分けられる。

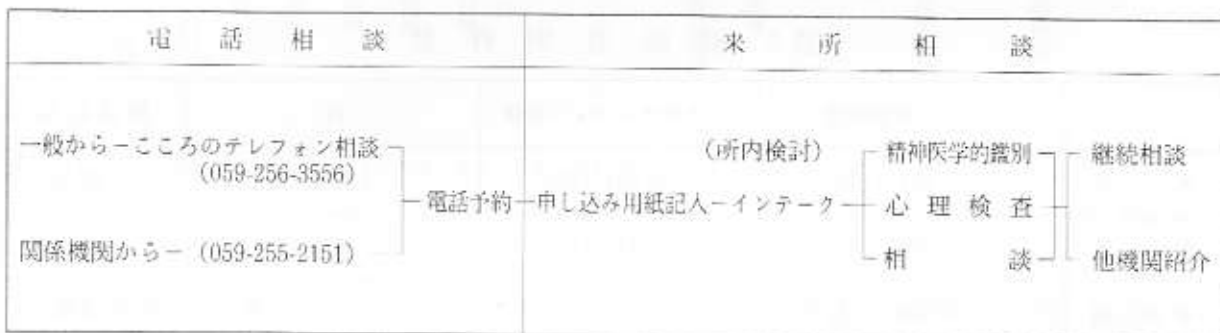
「こころの健康相談」は、思春期・老年期・酒害・ダイエットSOSのような特定相談も含め、毎週火・木を原則として相談に応じてきた。しかし相談者数の急増にともなって他の曜日にも随時予約をとり対応してきた。平成9年度の相談員は、医師2名（所長、精神科医1名）、保健婦（精神保健相談員）2名、精神ソーシャルワーカー1名、心理技術者2名の計7名である。

「こころのテレフォン相談」は、毎週月～金曜日の午前10時～午後4時まで、専用電話にて相談に応じている。その対応は専任の嘱託相談員（看護職）2名があたっている。

また、時間外については、留守録を利用し、必要な場合には、梨口センターから連絡をとる体制にしている。

相談の流れは、図1に示してある。この基本的な考え方は所内でそれぞれの専門職種が互いに検討を行い、それぞれの相談内容に適した方法がとれるようになっている。

図1 相談の流れ



平成9年度における相談の概要は以下のとおりである。

相談件数は、表1のとおりで、前年度と比べると、来所相談が114%、電話相談が150%で、共に増加している。特に、電話相談件数と来所相談の新規件数が、著しく増加している。全体の相談件数は123%の増加となっている。

最近5年間の年度別相談件数の推移は表2のとおりである。電話相談の増加は著しいが、来所相談に関しては、他事業との関係で日程の調整がつかない場合もあり、1000件前後を推移している。

表1 平成9年度 相談件数

		件数	構成比
こころの健康相談		1,089 (170)	20.1
こころのテレフォン相談		4,340 (728)	79.9
再掲	思春期	462 (175)	8.5
	老年期	185 (52)	3.4
	酒害	21 (14)	0.4
計		5,429 (898)	100.0

\* ( ) 内は新規件数再掲

表2 精神保健相談件数（年度別）

		平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度
こころの健康相談 （来所相談）		1,139 (109)	1,344 (104)	1,073 (96)	955 (91)	1,089 (170)
こころのテレフォン相談		2,593 (363)	2,472 (361)	2,946 (488)	3,448 (675)	4,340 (728)
再 掲	思 春 期	497 (136)	279 (133)	345 (140)	395 (164)	462 (175)
	老 年 期	46 ( 18)	134 ( 33)	199 ( 34)	209 ( 56)	185 (52)
	酒 害	6 ( 6)	1 ( 1)	5 ( 5)	13 ( 13)	21 (14)
計		3,732 (472)	3,816 (465)	4,019 (584)	4,403 (766)	5,429 (898)

※（ ）内は新規件数再掲

相談者別件数（表3）は、全体的に増加しているが、構成比は、昨年とほとんど、変化していない。

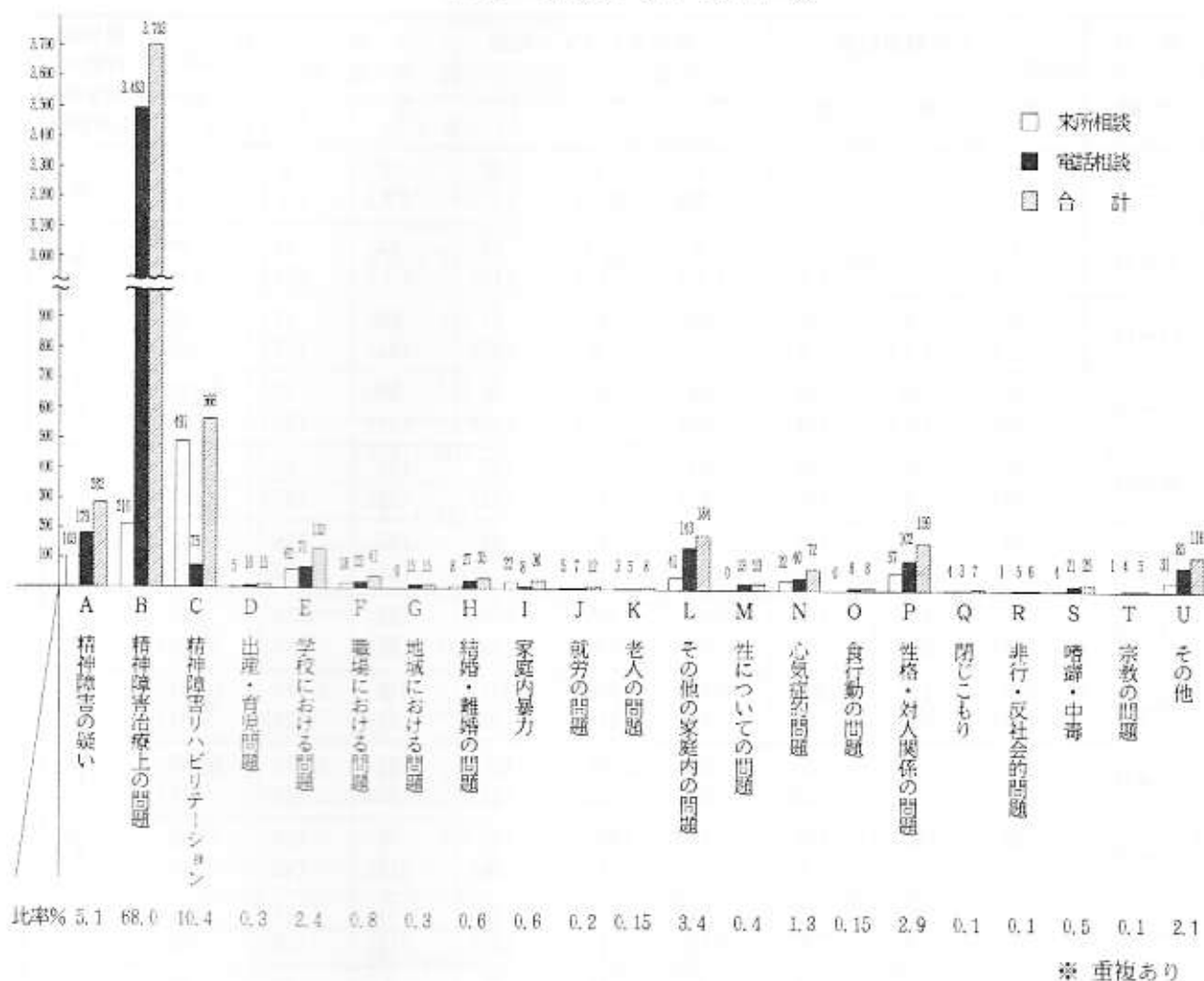
表3 相談者別件数

	こころの健康相談	こころのテレフォン相談	計	構成比%
本 人	871 (100)	3,854 (405)	4,725 (505)	87.0
家 族	192 ( 65)	410 (276)	602 (341)	11.1
そ の 他	26 ( 5)	76 ( 47)	102 ( 52)	1.9
計	1,089 (170)	4,340 (728)	5,429 (898)	100.0

※（ ）内は新規件数再掲

相談内容別件数は、図2に示してある。内容を大きく分けると、精神障害に関したもの（精神障害の疑い、精神障害治療上の問題、精神障害リハビリテーション）と適応障害（図D～U）に分けることができる。精神障害に関したものは、全体の83.6%と昨年同様高くなっており、中でも、精神障害治療上の問題が、68.0%で半数以上を占め、昨年より更に高い割合となっている。

図2 相談内容別件数



適応障害の方をみると、D, H, I, J, K, Lを含めた家庭内の問題が5.25%、適応障害の中では、31.8%を占め、最も多くを占めている。次が性格・対人関係の問題で2.9%で昨年よりやや増加、次が、学校における問題で2.4%となっている。昨年度と比べると、心気症の問題が0.5%から、1.3%に増加、性格・対人関係の問題も2.4%から2.9%に増加している。

表4 年代別、性別 相談件数

区 分	こころの健康相談			こころのテレフォン相談			合 計			総相談 件数に 対する 比率(%)
	年 齢	男	女	計	男	女	計	男	女	
0～5				3 (3)	6 (4)	9 (7)	3 (3)	6 (4)	9 (7)	0.2
6～12	7 (3)		7 (3)	5 (4)	14 (11)	19 (15)	12 (7)	14 (11)	26 (18)	0.5
13～15	35 (5)	5 (3)	40 (8)	31 (16)	12 (9)	43 (25)	66 (21)	17 (12)	83 (33)	1.5
16～18	38 (18)	14 (6)	52 (24)	54 (23)	32 (22)	86 (45)	92 (41)	46 (28)	138 (69)	2.5
児童計	80 (26)	19 (9)	99 (35)	93 (46)	64 (46)	157 (92)	173 (72)	83 (55)	256 (127)	4.7
19～22	84 (19)	74 (10)	158 (29)	42 (26)	41 (18)	83 (44)	126 (45)	115 (28)	241 (73)	4.4
23～29	55 (23)	109 (19)	164 (42)	130 (62)	225 (96)	355 (158)	185 (85)	334 (115)	519 (200)	9.6
30～39	150 (12)	137 (14)	287 (26)	298 (47)	1,606 (111)	1,904 (158)	448 (59)	1,743 (125)	2,191 (184)	40.4
40～49	158 (11)	75 (11)	233 (22)	64 (29)	1,396 (60)	1,460 (89)	222 (40)	1,471 (71)	1,693 (111)	31.2
50～59	55 (3)	61 (5)	116 (8)	19 (12)	100 (44)	119 (56)	74 (15)	161 (49)	235 (64)	4.3
60～64		13 (3)	13 (3)	14 (12)	104 (15)	118 (27)	14 (12)	117 (18)	131 (30)	2.4
65～69		14 (1)	14 (1)	1 (1)	16 (7)	17 (8)	1 (1)	30 (8)	31 (9)	0.6
70～	1 (1)	2 (2)	3 (3)	5 (4)	15 (8)	20 (12)	6 (5)	17 (10)	23 (15)	0.4
成人計	503 (69)	485 (65)	988 (134)	573 (193)	3,503 (359)	4,076 (552)	1,076 (262)	3,988 (424)	5,064 (686)	93.3
不 明	2 (1)		2 (1)	32 (26)	75 (58)	107 (84)	34 (27)	75 (58)	109 (85)	2.0
合 計	585 (96)	504 (74)	1,089 (170)	698 (265)	3,642 (463)	4,340 (728)	1,283 (361)	4,146 (537)	5,429 (898)	100.0

※ ( ) 内は新規件数再掲

次に、年代別、性別相談件数(表4)をみると、年代別には来所相談・テレフォン相談ともに30代が最も多く、次が40代であり、30代、40代で、71.6%を占めるのは昨年と同様である。

性別には、来所相談は、総件数、新規件数ともに男性の方が多いが、年代によっては逆転する。テレフォン相談は、例年通り、女性が圧倒的に多く、男性の4.5倍となっている。30代、40代、で特に女性が多い。これは、電話常習者が数名いるため特に多くなっている。新規件数と比較しても女性が1.7倍になっている。但し、児童では、男性が多くなっている。

表5 保健所管内別相談件数

保健所	こころの健康相談	こころの テレフォン相談	計	構成比(%)
桑名	44(8)	79(59)	123(67)	2.3
四日市	59(16)	148(94)	207(110)	3.8
鈴鹿	173(27)	885(74)	1,058(101)	19.5
津	319(48)	636(158)	955(206)	17.6
久居	252(19)	133(62)	385(81)	7.1
松阪	101(20)	2,107(58)	2,208(78)	40.7
伊勢	57(16)	147(71)	204(87)	3.7
志摩	13(6)	25(21)	38(27)	0.7
上野	45(15)	51(37)	96(52)	1.8
尾鷲	3(2)	19(15)	22(17)	0.4
熊野	12(1)	4(3)	16(4)	0.3
県外	7(3)	44(36)	51(39)	0.9
不明	4(1)	62(40)	66(41)	1.2
計	1,089(170)	4,340(728)	5,429(898)	100.0

※( )内は新規件数再掲

次に、保健所管内別相談件数(表5)をみると、来所相談では津・久居が多く、この2保健所管内で全体の52.4%を占める。次に鈴鹿・松阪と続くのは昨年と同様である。志摩・尾鷲・熊野は少なく、地理的な要因は大きいと思われる。テレフォン相談は、松阪保健所管内が特に多く、全体の48.5%を占める。電話常習者が数名いるため、多くなっている。次に鈴鹿・津と続く。新規件数をみると、来所相談では、桑名・志摩・尾鷲・熊野が少なく地域差がみられるが、テレフォン相談では、尾鷲、熊野を除いては、地域差は少なくなっている。



〈特定専門相談〉

思春期相談

表6 思春期内容別相談件数

	来所相談 (%)	テレフォン相談 (%)	計 (%)
総 件 数	250 (100.0)	212 (100.0)	462 (100.0)
A 精 神 障 害 の 疑 い	37 (14.8)	18 (8.5)	55 (11.9)
B 精 神 障 害 治 療 上 の 問 題	78 (31.2)	56 (26.4)	134 (29.0)
C 精 神 障 害 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン	11 (4.4)	1 (0.5)	12 (2.6)
E 学 校 に お け る 問 題	61 (24.4)	48 (22.7)	109 (23.6)
F 職 場 に お け る 問 題		2 (0.9)	2 (0.4)
G 地 域 に お け る 問 題		1 (0.5)	1 (0.2)
H 結 婚 ・ 離 婚 の 問 題		2 (0.9)	2 (0.4)
I 家 庭 内 暴 力	15 (6.0)		15 (3.3)
J 就 職 の 問 題	3 (1.2)	2 (0.9)	5 (1.1)
L そ の 他 の 家 庭 内 の 問 題	5 (2.0)	20 (9.4)	25 (5.4)
M 性 に つ い て の 問 題		21 (9.9)	21 (4.6)
N 心 気 症 的 問 題	2 (0.8)	4 (1.9)	6 (1.3)
O 食 行 動 の 問 題		3 (1.4)	3 (0.7)
P 性 格 ・ 対 人 関 係 の 問 題	29 (11.6)	21 (9.9)	50 (10.8)
Q 閉 じ こ も り	3 (1.2)	4 (1.9)	7 (1.5)
R 非 行 ・ 反 社 会 的 問 題	2 (0.8)	4 (1.9)	6 (1.3)
S 嗜 癖 ・ 中 毒	1 (0.4)	1 (0.5)	2 (0.4)
U そ の 他	3 (1.2)	4 (1.9)	7 (1.5)

思春期は、中学生から大学卒業までの年齢（13才～22才）を考えている。表6に思春期の相談内容別件数を示した。

来所相談は、250件あり、昨年の1.8倍に増加しており、来所相談全件数の23.0%を占めている。内容別にみると、精神障害治療上の問題が最も多く、78件で、次に学校における問題、精神障害の疑いと続いている。精神障害に関することと適応障害と大體、半々となっている。

テレフォン相談は、212件でテレフォン相談全件数の4.9%であり、件数、全体に占める割合共に低下している。内容別にみると精神障害治療上の問題、学校における問題が多く、性についての問題、家庭内の問題、精神障害の疑いと続く。テレフォン相談の方は、適応障害が64.6%で精神障害に関することより多くなっている。

昨年に比べ、性格・対人関係の問題が来所相談、テレフォン相談共に増加している。

## 老年期相談

表7 老年期内容別相談件数

	来所相談 (%)	テレフォン相談 (%)	計 (%)
総 件 数	30 (100.0)	155 (100.0)	185 (100.0)
A 精 神 障 害 の 疑 い	5 ( 40.6)	24 ( 15.5)	29 ( 15.7)
B 精 神 障 害 治 療 上 の 問 題	11 ( 13.5)	97 ( 62.6)	108 ( 58.4)
G 地 域 に お け る 問 題		4 ( 2.6)	4 ( 2.2)
H 結 婚 、 離 婚 の 問 題		1 ( 0.6)	1 ( 0.5)
J 就 職 の 問 題		1 ( 0.6)	1 ( 0.5)
K 老 人 の 問 題		2 ( 1.3)	2 ( 1.1)
L そ の 他 の 家 庭 内 の 問 題	14 ( 37.8)	16 ( 10.3)	30 ( 16.2)
N 心 気 症 的 問 題		2 ( 1.3)	2 ( 1.1)
P 性 格 ・ 対 人 関 係 の 問 題		2 ( 1.3)	2 ( 1.1)
S 嗜 癖 ・ 中 毒		1 ( 0.6)	1 ( 0.5)
U そ の 他		5 ( 3.3)	5 ( 2.7)

60才以上の老年期の相談は、今年度は185件であり、全件数の3.4%であり、件数、全体に占める割合共に、やや低下している。内容別件数は、表7に示してあるように、来所相談では、その他の家庭内の問題、精神障害治療上の問題が多く、テレフォン相談では、精神障害治療上の問題が多く、次に精神障害の疑い、その他の家庭内の問題と続き、昨年と同様である。又、精神障害に関するものが74.1%と多い傾向は老年期に関しても同じようにみられる。

### 酒害相談

酒害相談の件数は、今年度は21件（来所相談1件、テレフォン相談20件）で昨年に比べると、1.6倍と増えているが、全件数の0.4%であり、酒害に関する相談はアルコール専門病棟をもつ県立病院が隣接市にあることや、各保健所で相談を行っていることにより、例年通り、当センターにもちこまれることは少ないと思われる。

## (2) 思春期講座

思春期は子どもから大人への過渡期であるといわれ、過渡期であるがゆえに精神的な不安定さを生ずる。殊に現代社会のような社会変動が著しい状況においては、思春期が不安定さを特徴とする。そのためさまざまな心の問題が生じやすくなる。

登校拒否、家庭内暴力、非行など、思春期の心の問題が具体的な行動上の問題となって現れ、マスコミを始めとし社会的な関心が高まっている。

また、拒食症、心身症なども増加の傾向にある。

よく知られているように社会変動は文化的経済的な急激な変化だけでなく社会の基盤にある構造そのものも変わりつつある。このような時代的な流れの中で、家族の役割も不安定なものにならざるを得ない。

思春期の不安定さを安定化させる役割が家族の中にあると考えた時、家族の役割が不安定になることは、思春期の心の健康を考えていくうえで、重大な危惧を生ずる。

このような視点から今回の思春期講座は、この時期の子供をもつ家族を対象に、5回の連続講座をもち、各分野の立場から「思春期とは」の講義と話し合いをもった。その中で思春期における心の問題と家族の役割を見直すこととした。

## 《平成9年度思春期講座の概要》

### ● 目 的

思春期は人間の一生の中でも身体的、社会的、心理的にも変動の著しい時期で、この時期は、さまざまな心の揺れを持ち不安定になりやすい。時には、不登校、家庭内暴力、心身症などの思春期における心の問題が生じる。

この講座では、思春期の子どもをもつ家族に対して「思春期とは」の理解を深め、この時期の子どもを支えるための知識・理解を深める。

- 実施主体 三重県こころの健康センター
- 期 間 平成9年11月13日～平成10年3月12日  
毎月1回（第2木曜日） 午後1時30分～午後3時30分
- 場 所 三重県こころの健康センター
- 対 象 者 思春期の子どもをもつ家族で、連続して講座に参加できる方
- 内 容 講義 グループワーク
- 定 員 20名
- 受 講 料 無料
- 申込方法

別紙申込書により、三重県こころの健康センターへ申し込む  
(但し定員になり次第締切る)

### 平成9年度 思春期講座プログラム

期 日	内 容 お よ び 講 師
平成9年 11月13日	思春期の心と身体 宝積クリニック院長 宝 積 己 矩 子
12月11日	思春期と学校 県立津東高等学校教諭 藤 牧 恵
平成10年 1月8日	思春期と家族 県立小児心療センターあすなろ学園室長 久 保 義 和
2月12日	グループワーク 思春期の体験を通して子どもを理解する こころの健康センター 主幹（臨床心理士） 久 保 早 百 合
3月12日	グループワーク 子どもの自立をめぐる こころの健康センター 主幹（臨床心理士） 久 保 早 百 合

## 思春期講座の経過

参加者は、29名であった。地域を保健所管内別にみていくと、津が12名と多く、次で久居4名、四日市、鈴鹿各3名、伊勢、松阪各2名、伊賀、紀南各1名で参加者の地域の広がりがみられる。また、子どもが示す内容も、不登校、家庭内暴力、情緒不安定などの適応障害にとどまらず、分裂病の初期症状と思われる精神病圏まで、幅広い範囲のものを含んでいた。

また、思春期OB会からの参加者も6名あった。毎月の月例会に加えて講座への参加は、思春期の子ども達への理解をより深めていこうとする親の想いが強く感じられた。

### 〈第1回〉

宝積クリニックの宝積院長が、「思春期の心と身体」について、思春期とライフサイクル、思春期の特徴、身体の変化にたいする心理的反応、クリニックで出会う思春期の身体症状等の内容の話がされた。

思春期の子どもは、身体の変化を多少不安でも大人になっていく自分を受け入れていくが、なかには、身体の変化を認めまいとする子ども達がいる。そのような子どもの身体やその変化への意味づけについて話がされた。

### 〈第2回〉

県立津東高等学校の教育相談を担当されている藤牧先生は、「学校はどうなっているのか」「不登校の子ども達に対して学校としてどう対応すればよいのか」など、具体的に事例をとおしてとりあげられた。学校現場における努力を現場の先生の視点から話された。

またスクールカウンセラーと教育相談の役割を担う教諭との連携により、よい結果を生んだ事例についても話された。

### 〈第3回〉

県立小児心療センターあすなる学園の久保室長は、現代の青年達の具体的な姿をとりあげ、その背後にある親子関係の現代的な問題を指摘された。

大人の子育てに対する熱中が少なくなっており、子どもが絶対的に依存できる対象としての親である側面が少なくなっているあり方を示唆された。

今日的課題として、親のあり方を考える為に、3例の思春期の子ども達を具体的にとりあげ、親自身の価値感をもつことの大切さを強調された。

### 〈第4回〉

サイコドラマの形式で、ロールプレイングを通して、思春期の子ども達の心の動きを理解する試みを行った。参加者の方々自身が思春期の時代を回想させられることになり、楽しい気持ちになった方もみえれば、葛藤的な気持ちになった方もあったようである。いづれにしても、それぞ

れの参加者の方が、思春期の気持ちを体験したことについて、今後、子ども達の心の理解の為に役立つという、好意的な評価であった。

#### 〈第5回〉

参加者を2グループに分けて、それぞれ自由に討議の場をもった。親として、この時期の子どもにどう対応すればよいかなど、思春期の子どもの問題について、積極的に考えようとする姿勢がうかがわれた。このように親が自ら考えようとする姿勢がでてきたことは、この講座の意図する、親自身が問題を考え、親自身の姿勢を自ら考えるという目的の出発点であると思われる。また修了後月1回開かれている、思春期OB会への参加希望者はほとんどであった。

#### 思春期OB会

思春期講座の参加者の中から、有志が中心となりOB会が結成され、4年が経過した。親自身が思春期講座修了後、自分達の姿勢を変えていく必要を感じ、それを具体的に行っていこうとする親の熱意が感じられる。現在、毎月1回定例会をもっているが、当初6～8名の参加者であったが、今では毎回10～11名と増えている。この会では、思春期の子どもに対して、どのような対応をしていけばよいのか、またできるのかを会員相互に具体的に相談しあっている。また、地域で同じような悩みをもつ親に対してよき相談相手となっている会員も増えつつある。このように体験に基づいた話し合いは、会員相互の理解を深め、また具体的な対応を導きだすものとなっている。昨年度から、このような話し合いの外、立場をかえて学びたいということから河合塾相談室カウンセラー、スクールカウンセラーである臨床心理士の鈴木誠先生に話をしてもらい、具体的な相談も受けた。この機会に、それぞれの会員が、思春期の子どもをもち悩んでいる親を誘うなど会の輪が広がり、大変好評であった。また時には陶芸など、親のリフレッシュの場もつくっているが、これらのことが、会員相互のより強い親密感を築き、OB会の発展の「礎」となっているように思われる。

## 7. 調 査 ・ 研 究

## 調査・研究

精神保健福祉センターは、「地域精神保健福祉活動の推進並びに精神障害者の社会復帰の促進及び自立と社会経済活動への参加の促進等についての調査研究をするとともに、必要な統計及び資料を収集整備し、都道府県、保健所、市町村等が行う精神保健福祉活動が効果的に展開できるよう資料を提供する。」とその運営要領に定められている。

統計及び資料の収集整備に関しては、センター開設当初より精神保健関係の各種出版物、パンフレット、研修会の講演テープ、新聞記事のスクラップ等出来る限りの収集整理を行い、関係各位からの問い合わせや貸出しに応じている。

調査研究については、本年度は、県内9保健所と2支所を対象に行った管内の市町村の精神保健福祉活動調査と県内の保健所社会復帰相談指導事業（デイケア）利用者と共同作業所通所生を対象に、生活実態と社会復帰ニーズ調査を実施した。

市町村精神保健福祉活動については、表1のとおりである。

### 市町村精神保健福祉活動指標

#### A：促進的な外的条件

- 1 精神障害者家族会が結成されている。
- 2 精神障害者本人の集まりや活動がある。
- 3 家族会や精神障害者本人の組織が陳情などによって行政への要求や要望などを伝えている。
- 4 地域精神保健活動に支持的な医療機関が市町村内にある。
- 5 保健所、精神保健福祉センターの援助がある。
- 6 精神保健福祉に関心をもち支援を行う地域住民グループがある。

#### B：市町村の事業実施体制

- 1 保健福祉センターなど保健福祉を総合的に推進する事務所と職員をもっている。
- 2 精神保健福祉を専任で担当する職員が配置されている。
- 3 障害者福祉計画の策定にあたって精神障害者家族、本人あるいは関係機関の専門職員が委員として参加している。
- 4 市町村の職員が精神保健福祉の研修会に参加している。
- 5 精神保健福祉を担当する課（窓口）がはっきりしている。
- 6 精神保健福祉以外の分野でも、保健福祉に積極的姿勢である。

#### C：行われている事業の状況

- 1 家族会や患者会に援助を行っている。
- 2 精神保健ボランティアの育成を行っている。
- 3 作業所やグループホームの運営補助を行っている。



- 4 精神障害者のいる所帯がホームヘルパー派遣の除外対象になっていない。
- 5 精神保健福祉の普及啓発のための事業を行っている。
- 6 行われている事業や補助額について毎年見直しや検討が加えられている。

表1 保健所別平均得点

保健所管内	得点	得点内訳			市町村数
桑 名	3.2	A 1.6	B 0.9	C 0.7	9
四 日 市	4.5	1.6	2.1	0.8	5
鈴 鹿	7.2	3.0	2.2	2.0	3
津	6.2	2.4	2.4	1.4	5
久 居 支 所	4.9	1.2	2.1	1.6	7
松 阪	8.6	4.3	3.1	1.2	8
伊 勢	4.0	2.3	1.5	0.2	11
志 摩 支 所	5.2	2.2	3.0	0	6
上 野	9.2	3.4	2.4	3.4	7
尾 鷲	3.0	1.3	0.4	1.3	3
熊 野	6.0	2.2	3.8	0	5
三 重 県	5.5	2.3	2.1	1.1	69

保健所社会復帰相談指導事業利用者及び共同作業所通所生の生活実態と社会復帰ニーズ調査の実施要領、調査内容は下記のとおりで、調査結果については別紙にて報告する。

### 《保健所社会復帰相談指導事業利用者及び共同作業所通所生の 生活実態と社会復帰ニーズ調査実施要領》

#### 目 的

県内11保健所及び支所において社会復帰相談指導事業としてデイケアが実施され、小規模共同作業所は平成9年に13か所となった。各々の利用者及び通所生に対し、アンケート調査を実施し、彼らの生活実態を明らかにすると共に、当事者自身が必要としている社会資源、援助等を把握し今後の精神保健福祉活動に対する施策に反映させることを目的とする。

#### 対 象

県内の保健所社会復帰相談指導事業利用者及び小規模作業所通所生

#### 調査方法

対面によるアンケート調査

調査内容

保健所社会復帰相談指導事業利用者及び小規模作業所通所生の生活実態と、彼らが必要としている社会資源、援助等に関すること。

調査期間

平成10年1月26日から2か月間

実施主体

三重県こころの健康センター

保健所社会復帰相談指導事業利用者及び共同作業所通所生の生活実態と社会復帰ニード調査

氏名( )

1) 現在、どのような所に住んでいますか。

- 1. 一戸建て(持ち家)      2. 公営住宅      3. 民間のアパート、マンション
- 4. グループホーム      5. 援護寮、福祉ホーム      6. その他

2) 誰と一緒に暮らしていますか。

(あてはまるもの全てに○をつけてください。)

- 1. ひとり暮らし      2. 父      3. 母      4. 配偶者      5. 兄弟、姉妹
- 6. 子供      7. 祖父母      8. その他( )

3) 主たる収入源は何ですか。

(あてはまるもの全てに○をつけてください。)

- 1. 就労による収入      2. 障害年金      3. 生活保護      4. 家族からの援助
- 5. 作業所の賃金      6. その他( )

4) 日常の活動の場はどこですか。

(あてはまるもの全てに記入してください。)

- 1. 共同作業所へ通所している。 (1週間に 回)
- 2. デイケアへ通所している。
  - 保健所デイケア(こころの健康センターも含む) (1カ月に 回)
  - 病院デイケア (1週間に 回)

作業所、デイケアに行かない時は、どうしていますか。

- 3. 就労(正規の職員、パート、アルバイト、その他 )
- 4. 家事手伝い
- 5. その他( )

5) 休日、余暇の過ごし方についてお尋ねします。

(あてはまるもの全てに○をつけてください。)

1. 家で過ごすことが多い。
2. 外出する。 a. 買い物  
b. 図書館、文化センター  
c. ボーリング、カラオケ  
d. 習い事  
e. 教会など宗教関係  
f. その他 ( )
- 6) 日常生活の中で楽しみはありますか。  
1. ある 2. ない  
1と答えた方にお尋ねします。楽しみは何ですか。  
( )
- 7) これから、希望する社会資源、制度は何ですか。
- ① 就労関係  
a. JOY (職域パートナー)      b. 集団アルバイト      c. 障害者雇用枠  
d. ハローワーク障害者窓口の充実      e. 福祉工場  
f. その他 ( )
- ② 住居関係  
a. グループホーム      b. 援護寮      c. 福祉ホーム      d. 公営住宅優先利用制度  
e. その他 ( )
- ③ その他  
a. 憩いの場やソーシャルクラブ (好きな時に仲間と集まることのできる場)  
b. 特にない  
他に思いつくものがあれば何でも書いてください。  
( )
- 8) これまでどんな地域参加をしましたか。  
1. 選挙      2. 冠婚葬祭      3. 地域の行事 ( )  
4. 催し物      5. その他 ( )
- 9) 持っている資格を教えてください。  
1. 自動車免許 (普通 大型 バイク)      2. 調理師      3. 埋容師  
4. ワープロ      級      5. 英検      級      6. ソロベン      級  
5. その他 ( )
- 10) 異性関係についてお尋ねします。  
結婚歴      1. ある      2. ない  
恋愛体験      1. ある      2. ない  
これから結婚を考えている      1. はい      2. いいえ

11) 利用したことのある社会資源、制度に○をつけてください。

(あてはまるもの全てに○をつけてください。)

1. 通院医療費公費負担制度
2. 精神障害者福祉手帳
3. 障害年金
4. 生活保護
5. 共同作業所
6. 通所授産施設
7. 援護寮、福祉ホーム
8. グループホーム
9. 病院デイケア
10. 保健所デイケア
11. 通リハ
12. 職業安定所
13. 職安障害者窓口
14. 障害者職業センター
15. 保健所、センターの訪問、相談
16. 病院の訪問看護
17. 地域支援センター
18. その他

12) 重ねて「精神障害者福祉手帳」の制度についてお聞きします。

1. 知っている →どこで知りましたか。

- ・新聞や雑誌
- ・病院関係者(主治医他)
- ・保健所の職員
- ・作業所の職員
- ・友達
- ・家族
- ・その他

2. 知らない

- ・もっと詳しく知りたい
- ・特に知りたいとは思わない

13) 身体障害者の手帳では、手帳の取得によりいろいろな援助制度が利用できるようになっています。

今後、精神保健福祉手帳でも利用可能になるとよいと思う制度は何ですか。

1. 公営住宅優先入居
2. 公営住宅家賃減免
3. 交通機関運賃割引
4. 福祉電話設置料金減免
5. 公共施設の入場料金無料化
6. 水道料金、NHK受信料などの公共料金の割引
7. ホームヘルパーの派遣
8. その他( )
9. 特にない

14) 悩み事や困った事があるとき、誰に相談しますか。

1. 家族
2. 友達
3. 病院関係者(主治医、ケースワーカー他)
4. 保健所の職員
5. 作業所の職員
6. ボランティア
7. その他( )
8. 相談しない

15) 今後、地域で生活していくとき、必要だと思う生活支援は何ですか。

1. 病院や保健所職員による定期的な訪問、援助
2. 休日、夜間も相談できる24時間体制の相談の場所
3. 料理、洗濯など日常生活技術を教えてくれる場所
4. ホームヘルプサービス(給食、掃除など)
5. 短期宿泊、休息の場所
6. 特にない
7. その他( )

16) 精神保健ボランティアに何を期待しますか。

1. 相談相手(気軽に話せる相手)

2. 偏見の解消（社会への働きかけ）
3. 生活支援の一部
4. その他（ ）
5. 特になし

ご協力ありがとうございました。

最後に、現在の作業所、デイケアに望むこと、社会への思い、その他アンケートで書けなかった要望などありましたら自由に記入してください。

### Ⅲ. 資 料 編

### 三重県こころの健康センター図書目録

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
1	アリエティ分裂病入門	近藤 喬一 訳	星和書店
2	アルコール依存症	斎藤 学 共編	有斐閣
3	アルコール依存の社会病理	大橋 薫 編	星和書店
4	アルコール症 (J. フォート著)	大森 正英 訳	東京大学出版会
5	異常と正常	秋元 波留夫 著	東京大学出版会
6	遺伝精神医学	坪井 孝幸 著	金剛出版
7	医療ソーシャルワーカー論	児島 美都子 著	ミネルヴァ書房
8	岩波国語辞典	西尾 実 著	岩波書店
9	狼に育てられた子 (J. A. L. ジング著)	中野 善達 訳	福村出版
10	カウンセリングと人間性	河合 隼雄 著	創元社
11	カウンセリングの実際問題	河合 隼雄 著	誠信書房
12	覚醒剤中毒	山下 格 著	金剛出版
13	仮面デプレッションのすべて	筒井 末春 著	新興医学出版社
14	健康と福祉 (厚生行政百問百答)	厚生省 監修	厚生問題研究会
15	現代精神分析 1	小比木 啓吾 著	誠信書房
16	現代精神分析 2	小比木 啓吾 著	誠信書房
17	講座 家族精神医学 1	加藤 正明 共編	弘文堂
18	講座 家族精神医学 2	加藤 正明 共編	弘文堂
19	講座 家族精神医学 3	加藤 正明 共編	弘文堂
20	講座 家族精神医学 4	加藤 正明 共編	弘文堂
21	講座 日本の老人 1 老人の精神医学と心理学	金子 仁郎 共編	垣内出版
22	講座 日本の老人 2 老人の福祉と社会保障	岡村 重雄 共編	垣内出版
23	講座 日本の老人 3 老人と家族の社会学	那須 宗一 共編	垣内出版
24	行動と脳	今村 護郎 著	東京大学出版会
25	最新児童精神医学	高木 隆郎 監訳	ルガール社
26	自己と他者 (R. D. レイン著)	志貴 春彦 共訳	みすず書房
27	実務衛生行政六法61年版	厚生省 監修	新日本法規
28	児童精神衛生マニュアル	松本 和雄 共著	日本文化科学社
29	児童の発達と行動	加藤 正明 共訳	医学書院

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
30	死にゆく患者と家族への援助	柏木哲夫著	医学書院
31	社会精神医学の実際 1	加藤伸勝編	医学書院
32	社会精神医学の実際 2	佐藤亮三編	医学書院
33	社会精神医学の実際 3	逸見武光編	医学書院
34	社会精神医学の実際 4	加藤伸勝編	医学書院
35	生涯各期の心身症とその周辺疾患	並木正義編	診断と治療社
36	小児メディカルケアシリーズ 6 小児のMBD	上村菊郎共著	医歯薬出版
37	小児メディカルケアシリーズ 7 登校拒否症	若林真一郎著	医歯薬出版
38	小児メディカルケアシリーズ 8 小児のてんかん	福山幸夫著	医歯薬出版
39	小児メディカルケアシリーズ 13 小児の糖尿病	川中美郷著	医歯薬出版
40	小児メディカルケアシリーズ 14 自閉症	村田豊久著	医歯薬出版
41	小児メディカルケアシリーズ 15 小児の心身症	河野友信著	医歯薬出版
42	小児メディカルケアシリーズ 20 夜尿症	三好邦雄著	医歯薬出版
43	職場の精神衛生	春原千秋共編	医学書院
44	事例検討と看護実践	外口玉子編	看護事例検討会
45	事例検討と患者ケアの展開	外口玉子編	バオバブ社
46	心身の力動的発達		岩崎学術出版社
47	新精神保健法（法令、通知、資料）	厚生省監修	中央法規出版
48	心理療法の実践	河合隼雄編	誠信書房
49	人類遺伝入門	大倉興司著	医学書院
50	睡眠障害	上田英雄編	南江堂
51	睡眠障害	山口成良共著	新興医学出版社
52	ステップマン医学大辞典	.....	メディカルビュー
53	増補版 精神医学辞典	加藤正明共編	弘文堂
54	精神医学ソーシャルワーク	柏木昭編	岩崎学術出版社
55	精神医学と社会療法	秋元波留夫著	医学書院
56	精神医療の実践	菱山珠夫共編	金原出版
57	精神衛生と法的問題	高宮澄夫共訳	牧野出版
58	精神衛生と保健活動	中澤正夫共編	医学書院
59	精神衛生のための100か条	中沢正夫著	創造出版



番号	書名	著者又は訳者	出版社名
60	精神衛生法詳解	公衆衛生法規研究会	中央法規出版
61	精神科のソーシャルスキル	アイリーン山口監修	協同医書出版
62	精神科のリハビリテーション	吉川武彦著	医学図書出版
63	精神科のハーフウェイハウス	加藤正明著	星和書店
64	精神科 MOOK 3 覚せい剤・有機溶剤中毒	加藤伸勝著	金原出版
65	精神科 MOOK 4 境界例	保崎秀夫著	金原出版
66	精神科 MOOK 6 思春期の危機	下坂幸三著	金原出版
67	精神科 MOOK 8 老人期痴呆	長谷川和夫著	金原出版
68	精神疾患ケース・スタディ	森温理著	医学書院
69	精神疾患と心理学	神谷美恵子著	みすず書房
70	精神障害者との出会い	加藤伸勝編	医学書院
71	精神障害者のディケア	加藤正明共編	医学書院
72	精神分析用語辞典	村上仁監訳	みすず書房
73	精神分析セミナー I 精神療法の基礎	小比木啓吾共編	岩崎学術出版社
74	精神分析セミナー II 精神分析の治療機序	小比木啓吾共編	岩崎学術出版社
75	精神分析セミナー III フロイトの治療技法論	小比木啓吾共編	岩崎学術出版社
76	精神分析セミナー V 発達とライフサイクルの視点	小比木啓吾共編	岩崎学術出版社
77	精神分裂病の治療と社会復帰	蜂矢英彦著	金剛出版
78	青年期境界例の治療	成田善弘共訳	金剛出版
79	側頭葉てんかん	宇野正威著	星和書店
80	チューリッヒ学派の分裂病論	人見一彦著	金剛出版
81	てんかん診療の実際	福山幸雄監訳	医学書院
82	断酒学	村田忠良著	星和書店
83	地域精神衛生の理論と実際	加藤正明監修	医学書院
84	日本の中高年 1 (上) 中高年健康管理学	篠野脩一編	垣内出版
85	日本の中高年 1 (下) 中高年健康管理学	篠野脩一編	垣内出版
86	日本の中高年 2 中高年女性学	篠野脩一編	垣内出版
87	日本の中高年 3 収穫の世代	袖井孝子編	垣内出版
88	日本の中高年 4 老人のプロセスと精神障害	戸川行男共編	垣内出版
89	日本の中高年 5 中高年にみる生活危機	本村汎共編	垣内出版

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
90	日本の中高年 6 病める老人を地域でみる	前田信雄 著	垣内出版
91	ニュー セックス セラピー	野末源一 訳	星和書店
92	脳と心を考える	井上英二 編	講談社
93	方法としての事例検討	外口玉子 著	看護協会出版会
94	保健所精神衛生活動のすすめ方	岡上和雄 共著	牧野出版
95	夫婦家族療法	鈴木浩二 訳	誠信書房
96	ポウルビィ母子関係入門	作田勉 訳	星和書店
97	分裂病家族の研究	井村恒郎 著	みすず書房
98	メンタルヘルス解説辞典	大原健志郎 編	中央法規出版
99	森田正馬全集 1	森田正馬 著	白揚社
100	森田正馬全集 2	森田正馬 著	白揚社
101	森田正馬全集 3	森田正馬 著	白揚社
102	ユキの日記	笠原嘉 編	みすず書房
103	病むということ	江畑啓介 訳	星和書店
104	ライフサイクルからみた女性の心	石川中 共訳	医学書院
105	臨床神経心理学	濱中淑彦 共訳	文光堂
106	臨床体験をつなぐ事例検討	外口玉子 編	バオバブ社
107	臨床てんかん学	和田豊治 著	金原出版
108	老人心理へのアプローチ	長谷川和夫 共著	医学書院
109	老人精神衛生活動を始める人のため	浜田晋 著	創造出版
110	老人保健の基本と展開	松崎俊久 編	医学書院
111	老人ぼけの理解と援助	三宅貴夫 編	医学書院
112	老年期の精神科臨床	室伏君士 著	金剛出版
113	老年期の精神障害	長谷川和夫 著	新興医学出版社
114	老年の精神医学	加藤伸勝 監訳	医学書院

## 63年度以降購入分

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
1	現代精神医学大系 1 A 精神医学総論 I		中山書店
2	現代精神医学大系 1 B 1 a 精神医学総論 II a 1		中山書店
3	現代精神医学大系 1 B 1 b 精神医学総論 II a 2		中山書店
4	現代精神医学大系 1 B 2 精神医学総論 II b		中山書店
5	現代精神医学大系 1 C 精神医学総論 III		中山書店
6	現代精神医学大系 2 A 精神疾患の成因 I		中山書店
7	現代精神医学大系 2 B 精神疾患の成因 II		中山書店
8	現代精神医学大系 2 C 精神疾患の成因 III		中山書店
9	現代精神医学大系 3 A 精神症状学 I		中山書店
10	現代精神医学大系 3 B 精神症状学 II		中山書店
11	現代精神医学大系 4 A 1 精神科診断学 I a		中山書店
12	現代精神医学大系 4 A 2 精神科診断学 I b		中山書店
13	現代精神医学大系 4 B 精神科診断学 II		中山書店
14	現代精神医学大系 5 A 精神科治療学 I		中山書店
15	現代精神医学大系 5 B 精神科治療学 II		中山書店
16	現代精神医学大系 5 C 精神科治療学 III		中山書店
17	現代精神医学大系 6 A 精神症と心因反応 I		中山書店
18	現代精神医学大系 6 B 精神症と心因反応 II		中山書店
19	現代精神医学大系 8 人格異常、性的異常		中山書店
20	現代精神医学大系 9 A 躁うつ病 I		中山書店
21	現代精神医学大系 9 B 躁うつ病 II		中山書店
22	現代精神医学大系 10 A 1 精神分裂病 I a		中山書店
23	現代精神医学大系 10 A 2 精神分裂病 I b		中山書店
24	現代精神医学大系 10 B 精神分裂病 II		中山書店
25	現代精神医学大系 12 境界例、非定型精神病		中山書店
26	現代精神医学大系 15 A 薬物依存と中毒 I		中山書店
27	現代精神医学大系 15 B 薬物依存と中毒 II		中山書店
28	現代精神医学大系 18 老年精神医学		中山書店
29	現代精神医学大系 23 A 社会精神医学と精神衛生 I		中山書店

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
30	現代精神医学大系 23B 社会精神医学と精神衛生Ⅱ		中山書店
31	現代精神医学大系 23C 社会精神医学と精神衛生Ⅲ		中山書店
32	現代精神医学大系 24 司法精神医学		中山書店
33	現代精神医学大系 25 文化と精神医学		中山書店
34	フロイド著作集1巻、精神分析入門(正統)	懸田克躬・高橋義孝訳	人文書院
35	フロイド著作集2巻、夢判断	高橋義孝訳	人文書院
36	フロイド著作集3巻、文化・芸術論	高橋義孝他訳	人文書院
37	フロイド著作集4巻、日常生活の精神病理学他	懸田克躬他訳	人文書院
38	フロイド著作集5巻、性欲論・症例研究	懸田克躬・高橋義孝他訳	人文書院
39	フロイド著作集6巻、自我論・不安本能論	井村恒郎・小比木啓吾他訳	人文書院
40	フロイド著作集7巻、ヒステリー研究他	懸田克躬・小比木啓吾他訳	人文書院
41	フロイド著作集8巻、書簡集	生松敬三他訳	人文書院
42	フロイド著作集9巻、技法・症例篇	小比木啓吾訳	人文書院
43	フロイド著作集10巻、文学・思想篇Ⅰ	高橋義孝・生松敬三他訳	人文書院
44	フロイド著作集11巻、文学・思想篇Ⅱ	高橋義孝・生松敬三他訳	人文書院
45	臨床脳波学	大熊輝雄	医学書院
46	クレベリンの精神医学1巻 精神分裂病	西丸四方・西方甫夫訳	みすず書房
47	クレベリンの精神医学2巻 躁うつ病とてんかん	西丸四方・西方甫夫訳	みすず書房
48	クレベリンの精神医学3巻 心因性疾患とヒステリー	遠藤みどり訳	みすず書房
49	遠藤四郎睡眠研究論集	遠藤四郎	星和書店
50	分裂病の身体療法	宇野昌人他訳	星和書店
51	躁うつ病の精神病理 1	笠原嘉編	弘文堂
52	躁うつ病の精神病理 2	宮本忠雄編	弘文堂
53	躁うつ病の精神病理 3	飯田真編	弘文堂
54	躁うつ病の精神病理 4	木村敏編	弘文堂
55	躁うつ病の精神病理 5	笠原嘉編	弘文堂
56	精神遅滞児(者)の医療・教育・福祉	櫻井芳郎他訳	岩崎学術出版社
57	岩波講座、子どもの発達と教育1、子どもの発達と現代社会		岩波書店
58	岩波講座、子どもの発達と教育3、発達と教育の基礎理論		岩波書店
59	岩波講座、子どもの発達と教育7、発達の保障と教育		岩波書店

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
60	分裂病の精神病理 4	萩野恒一編	東京大学出版会
61	青年の精神病理 1	笠原嘉・清水将之・伊藤克彦編	弘文堂
62	青年の精神病理 2	小比木啓吾編	弘文堂
63	青年の精神病理 3	清水将之・村上靖彦編	弘文堂
64	講座 生活ストレスを考える 1. 生活ストレスとは何か	石原邦雄・山本和郎・坂本弘編	垣内出版
65	講座 生活ストレスを考える 2. 生活環境とストレス	山本和郎編	垣内出版
66	講座 生活ストレスを考える 3. 家族生活とストレス	石原邦雄編	垣内出版
67	講座 生活ストレスを考える 4. 職場集団にみるストレス	坂本弘編	垣内出版
68	講座 生活ストレスを考える 5. 学校社会のストレス	安藤延男編	垣内出版
69	メラニーライン著作集 1. 子どもの心的発達	責任編訳・西岡昌久・牛島定信著	誠信書房
70	メラニーライン著作集 3. 愛、罰そして償い	責任編訳・西岡昌久・牛島定信著	誠信書房
71	メラニーライン著作集 4. 妄想的・分裂的世界	責任編訳・小比木啓吾・岩崎徹也	誠信書房
72	メラニーライン著作集 6. 児童分析の記録 I	山上千鶴子訳	誠信書房
73	アルコール薬物依存	大原健士・田所作太郎編	金原出版株式会社
74	無意識の発見 上	アンリ・エレンベルガー著・木村敏・中井久夫編訳	弘文堂
75	無意識の発見 下	アンリ・エレンベルガー著・木村敏・中井久夫編訳	弘文堂
76	新しい子ども学 3巻 1育つ	小林登・小嶋謙四郎他著	海鳴社
77	新しい子ども学 3巻 2育てる	〃	〃
78	新しい子ども学 3巻 3子どもとは	〃	〃
79	アンナ・フロイド著作集 1 児童分析入門	岩村由美子・中沢たえ子訳	岩崎学術出版社
80	アンナ・フロイド著作集 2 自我と防衛機制	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
81	アンナ・フロイド著作集 3 家庭なき幼児たち・上	中沢たえ子訳	岩崎学術出版社
82	アンナ・フロイド著作集 4 家庭なき幼児たち・下	中沢たえ子訳	岩崎学術出版社
83	アンナ・フロイド著作集 5 児童分析の指針上	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
84	アンナ・フロイド著作集 6 児童分析の指針下	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
85	アンナ・フロイド著作集 7 ハムステッドにおける研究・上	牧田清志・阪本良男・児玉憲興訳	岩崎学術出版社
86	アンナ・フロイド著作集 8 ハムステッドにおける研究・下	牧田清志・阪本良男・児玉憲興訳	岩崎学術出版社
87	アンナ・フロイド著作集 9 児童期の正常と異常	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
88	アンナ・フロイド著作集 10 児童分析の訓練	佐藤紀子・岩崎徹也・辻律子訳	岩崎学術出版社
89	講座、精神の科学 2 パーソナリティ		岩波書店

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
90	異常心理学講座 4 巻 1 学派と方法	土居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
91	異常心理学講座 3 人間の生涯と心理	土居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
92	異常心理学講座 4 神経症と精神病1	土居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
93	異常心理学講座 5 神経症と精神病2	土居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
94	井村恒郎著作集 1 精神病理学研究	井村恒郎著	みすず書房
95	井村恒郎著作集 2 脳病理学・神経症	〃	みすず書房
96	井村恒郎著作集 3 分裂病・家族の研究	〃	みすず書房
97	新しい精神医学	高橋良・塚弘監修	ヘスコインターナショナル
98	老年の心理と精神医学	金子仁郎著	金剛出版
99	叢書・精神の科学 1 巻精神の幾何学	安永浩著	岩波書店
100	叢書・精神の科学 2 巻シンファンの病い	小出浩之著	岩波書店
101	叢書・精神の科学 4 治療の場からみた分裂病	坂本暢典著	岩波書店
102	叢書・精神の科学 5 正気の発見	内沼幸雄著	岩波書店
103	叢書・精神の科学 6 心身症と心身医学	成田善弘著	岩波書店
104	叢書・精神の科学 7 意識障害の人間学	河合逸雄著	岩波書店
105	叢書・精神の科学 8 境界事象と精神医学	鈴木茂著	岩波書店
106	叢書・精神の科学 10 精神と身体	遠藤みどり著	岩波書店
107	叢書・精神の科学 11 脳と言語	野上芳美著	岩波書店
108	叢書・精神の科学 12 貧困の精神病理	大平健著	岩波書店
109	叢書・精神の科学 13 「非行」が語る親子関係	佐々木譲・石附敦著	岩波書店
110	井村恒郎・人と学問	懸田克躬編	みすず書房
111	人間性心理学への道（現象学からの提言）	村上英治編	誠信書房
112	生きること かかわること	村上英治監修	名古屋大学出版会
113	人格の対象関係論（フェッバーン著）	山口泰司訳	文化書房博文社
114	臨床的对象関係論（フェッバーン著）	山口泰司・原田千恵子訳	文化書房博文社
115	性的例錯（メダルト・ボス著）	村上仁・吉田和夫訳	みすず書房
116	性の逸脱（ストー著）	山口泰司訳	理想社
117	子どもの治療相談①適応障害・学業不振・神経症	ウイニユット著・橋本雅雄翻訳	岩崎学術出版社
118	子どもの治療相談②反社会的傾向・盗みと愛情剥奪	ウイニユット著・橋本雅雄翻訳	岩崎学術出版社
119	摘画による心の診断	岩井寛著	日本文化科学社

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
120	家族療法 (ジェイ・ヘイリィ著)	佐藤悦子訳	川島書店
121	夫婦家族療法I (Dグリッケ D・Rクスラー著)	鈴木浩二訳	誠信書房
122	集団精神療法の理論と実際	池田由子著	医学書院
123	心理面接の技術	前田重治著	慶応通信
124	コミュニテイ心理学	山本和郎著	東京大学出版会
125	日本の精神障害者	岡上和雄・大島巖・荒井元傳編	ミネルウァ書房
126	日常性の精神医学 (ヴァン・デン・ベルグ著)	早坂泰次郎・矢崎好子訳	川島書店
127	表情病	阿部正著	誠信書房
128	現代精神医学の概念 (サリヴァン著)	中井久夫・山口隆訳	みすず書房
129	精神医学的而接 (サリヴァン著)	中井久夫・山口隆訳	みすず書房
130	発想の航跡	神田橋 條 治	岩崎学術出版社
131	身体の心理学 (P・シルダー著)	稲永和豊監修	早和書店
132	岩波 心理学小辞典	宮城音弥編	岩波書店
133	精神病棟の20年	松本昭夫著	新潮社
134	精神障害・薄弱百問百答	児島美都子監修	中央法規出版
135	アメリカの精神医療	仙波恒雄監訳・解説	星和書店
136	新精神保健法	厚生省保健医療局精神保健課監修	中央法規出版
137	適正飲酒ガイドブック		アルコール健康医学協会
138	痴呆老人対策	痴呆性老人対策推進部事務局編	中央法規出版
139	ぼけ老人の家庭介護手引き		厚生環境問題研究会
140	だれでも精神科治療	小池清廉著	ルガール社
141	日本人の深層分析1 母親の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
142	日本人の深層分析2 父親の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
143	日本人の深層分析3 エロスの深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
144	日本人の深層分析4 攻撃性の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
145	日本人の深層分析5 夢と象徴の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
146	日本人の深層分析6 創造性の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
147	日本人の深層分析7 病める心の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
148	日本人の深層分析9 子どもの深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
149	日本人の深層分析10 青年期の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
150	日本人の深層分析11 老いとるもの深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
151	思春期の対象関係論	牛島定信	金剛出版
152	痴呆老人の理解とケア	室伏君士	金剛出版
153	薬物依存	加藤雄司	金剛出版
154	分裂病者の行動特性	昼田源四郎	金剛出版
155	老年期精神障害の臨床	室伏君士編	金剛出版
156	E.ミンコフスキー 生きられる時間 1	中江育生・清水誠 訳	みすず書房
157	E.ミンコフスキー 生きられる時間 2	中江育生・清水誠・大橋博司訳	みすず書房
158	E.ミンコフスキー 精神分裂病	村上仁 訳	みすず書房
159	異常心理学講座 第9巻	上原節郎・宮崎高・宮本忠雄・木村敏責任編集	みすず書房
160	E.クレベリン <精神医学>2 躁うつ病とてんかん	西丸四方・西丸甫夫訳	みすず書房
161	精神科看護とデイ・ケア	加藤政子・松元信子訳	医学書院
162	精神科看護の展開	外間邦江・外口玉子訳	医学書院
163	精神科看護と福祉	加藤政子・松元信子訳	医学書院
164	病院精神医療の展開	監修 加藤伸勝	医学書院
165	PS.Powers,RC.Fernandez 神経性食欲不振症過食症の治療	監訳保崎秀夫・高木洲一郎	医学書院
166	R.K.コーニン編 ハンドブックグループワーク	馬場禮子 監訳	岩崎学術出版社
167	精神分析を語る	西園昌久	岩崎学術出版社
168	精神医学図書総覧	小林司 編	岩崎学術出版社
169	ウォン教授の集団精神療法セミナー グループリーダーのあり方	秋山剛 訳	日本集団精神療法学会第2回ウォン教授集団精神療法セミナー実行委員会発売:星和書店
170	ウォン教授の集団精神療法セミナー	山口隆・松原太郎 監修	日本集団精神療法学会 発売:星和書店
171	精神医療における芸術療法	徳田良仁・式場聡	牧野出版
172	マルコム・レコーダー 裁かれる精神医学	秋元波留夫・大木善和	創造出版
173	D.W.ウィニコット 子どもと家庭	牛島定信 監訳	誠信書房
174	医心理学	藤田憲一・小片寛・湯沢千尋・眞信夫	朝倉書店
175	心の病気と現代	秋元波留夫	東京大学出版会
176	精神障害者の社会復帰	寺谷隆子 編	中央法規出版
177	ストレス診療ハンドブック	河野友信・吾郷晋浩	メディカルサイエンス インターナショナル
178	生活と福祉 別冊事例集 アルコール依存症 および精神障害特集		全国社会福祉協議会



番号	書名	著者又は訳者	出版社名
179	バトグラフィ双書3 宮沢賢治	福島章	金剛出版
180	バトグラフィ双書6 ドフトエフスキー	荻野恒一	〃
181	バトグラフィ双書8 ヘミングウェイ	伊藤高麗夫	〃
182	バトグラフィ双書9 志賀直哉	鹿野達男	〃
183	バトグラフィ双書10 川端康成	稲村博	〃
184	バトグラフィ双書12 高村光太郎	町沢静夫	〃
185	精神科MOOK 2 家族精神医学	編集企画 西園昌久	金原出版
186	〃 5 アルコール関連障害	〃 加藤正明	〃
187	〃 9 精神分裂病の治療と予後	〃 山下格	〃
188	〃 11 身体疾患と精神障害	〃 原田憲一	〃
189	〃 12 対人恐怖症	〃 高橋徹	〃
190	〃 13 躁うつ病の治療と予後	〃 更井啓介	〃
191	〃 14 青少年の社会病理	〃 藤原豪	〃
192	〃 15 精神療法の実際	〃 吉松和哉	〃
193	〃 16 自殺	〃 春原千秋	〃
194	〃 17 法と精神医療	〃 逸見武光	〃
195	〃 18 家庭と学校の精神衛生	〃 山田通夫	〃
196	〃 19 森田療法-理論と実際	〃 大原健士郎	〃
197	〃 20 精神科救急医療	〃 山崎敏雄	〃
198	〃 21 睡眠の病態	〃 菱川泰夫	〃
199	ヤスパース精神病理学研究	藤森英之訳	みすず書房
200	アルコール依存症の精神病理	斎藤学	金剛出版
201	精神分析治療の進歩	西園昌久	〃
202	非行の病理と治療	石川義博	〃
203	家庭内暴力	若林慎一郎・本城秀次	〃
204	性的異常の臨床	高橋進・柏瀬宏隆 編	〃
205	分裂病と構造	小出浩之	〃
206	心理臨床家の目指すもの	台利夫・新田健一・長谷川孫一郎	〃
207	C.M. アンダーソン・D.J. レイス・G.E. ハガティ 著 分裂病と家族上	鈴木浩二・鈴木和子監訳	〃
208	C.M. アンダーソン・D.J. レイス・G.E. ハガティ 著 分裂病と家族下	鈴木浩二・鈴木和子監訳	〃

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
209	精神分裂治療の展開	西 園 昌 久	金 剛 出 版
210	DSM-Ⅲ-R 精神障害の分類と診断の手引き第2版	高橋三郎・花田耕一・藤嶋昭	医 学 書 院
211	内因性精神病	吉 永 五 郎	医 学 書 院
212	Wブランケンブルグ自明性の喪失	木村敏・岡本進・鳥弘嗣共訳	み す ず 書 房
213	精神保健実践講座 ①精神保健の基礎理解	加藤正明監・吉川武彦・佐野光正編	中 央 法 規 出 版
214	“ ②精神保健と精神科医療	加藤正明監・蜂矢英彦・南雲与志郎編	“
215	“ ③精神保健とリハビリテーション活動	加藤正明監・蜂矢英彦・岡上和雄編	“
216	“ ④精神保健の社会資源	加藤正明監・村田信男・大江基編	“
217	“ ⑤地域精神保健活動の理解と実際	加藤正明 監・村田信男・藤井克徳編	“
218	“ ⑥精神保健と家族問題	加藤正明監・滝沢武久・村田信男編	“
219	“ ⑦精神保健教育のあり方	加藤正明監・吉川武彦・佐野光正編	“
220	“ ⑧精神保健行政と生活保障	加藤正明監・見浦康文・滝沢武久編	“
221	“ ⑨精神保健の法制度と運用	加藤正明監・小松源助・林幸男編	“
222	“ ⑩精神保健関係資料集	加藤正明監・見浦康文・中村俊哉編	“
223	精神保健法詳解	精神保健法規研究会 編集	“
224	精神科デイケア	精研デイケア研究会編・代表柏木昭	岩 崎 学 術 出 版 社
225	日本人の深層分析12 現代社会の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有 斐 閣
226	精神科MOOK 26 精神科における医療と福祉	編集企画 蜂谷英彦	金 原 出 版
227	援助困難な老人へのアプローチ	根 本 博 司 編 集	中 央 法 規
228	分裂病を生きる	安 斎 三 郎 編 著	日 本 評 論 社
229	臨床ケースワーク	武 田 建 荒 川 義 子	川 島 書 店
230	臨床描画研究 I 描画テストの読み方	家 族 画 研 究 会 編	金 剛 出 版
231	臨床描画研究 II 家族画による診断と治療	“	金 剛 出 版
232	臨床描画研究 III 思春期、青年期の病理と描画	“	金 剛 出 版
233	臨床描画研究 IV 描画の臨床的活用	“	金 剛 出 版
234	臨床描画研究 V イメージと臨床	“	金 剛 出 版
235	臨床描画研究Annex 1 家族イメージとその投影	“	金 剛 出 版
236	“ 2 私の表現病理学	“	金 剛 出 版
237	“ 3 描画を読むための理論背景	“	金 剛 出 版
238	治療構造論	岩 崎 徹 也	岩 崎 学 術 出 版 社

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
239	精神障害者福祉	田村健二、坪上宏、浜田晋、岡上和雄	相川書房
240	過食の病理と治療	下坂幸三 編	金剛出版
241	精神医学は対人関係論である H. S. サリヴァン著	中井久夫、宮崎隆吉、高木敬三	みすず書房
242	分裂病と家族の感情表出 J. レフ C. ヴォーン著	三野善央、牛島定信 訳	金剛出版
243	医療の人類学	波平恵美子 監訳	海鳴社
244	思春期やせ症の家族	福田俊一 監訳	星和書店
245	家族療法の理論と実際 I	大原健士郎、石川元	星和書店
246	家族療法の理論と実際 II	大原健士郎、石川元	星和書店
247	戦略的心理療法の展開 ジョンヘイリー著	高石昇、横田恵子 訳	星和書店
248	「うつ」を生かす	大野 裕	星和書店
249	青年期精神衛生事例集	清水将之、北村陽英	星和書店
250	感情病および精神分裂病用面接基準	保崎秀雄	星和書店
251	精神科のロングターム、ケア	山田義夫、小口徹	協同医書出版社
252	家族療法ケース研究2 登校拒否	鈴木浩二	金剛出版
253	方法としての面接	土居健郎	医学書院
254	自我同一性研究の展望(青年期)	鎌幹八郎、山本力、宮下一博	ナカニシヤ
255	精神障害者の職業リハビリテーション	岡上和男、松為信男、野中猛	中央法規出版
256	自立のための援助論	久保紘章	川島書店
257	患者家族会のつくり方と進め方	外口玉子	川島書店
258	セルフ・ヘルプ・グループの理論と実際	久保紘章	川島書店
259	家族変容の技法をまなぶ GR. パターソン	大淵憲一、春木豊	川島書店
260	精神を病むということ	秋元波留夫、上田敏	医学書院
261	増補 精神発達と精神病理	北田藤之助、馬場謙一、下坂幸三	金剛出版
262	性の臨床	河野友信	医学書院
263	中年期の精神医学	飯田 眞	医学書院
264	医学モデルを超えて E. G. ミシュラー著	尾崎新、三宅由子、丸井英二	星和書店
265	老人期痴呆の医療と看護	室伏君士	金剛出版
266	精神医学4 強迫神経症	遠藤みどり、稲浪正充	みすず書房
267	青年期 美と苦悩	大東祥孝、松本雅彦 新宮一成、山中康裕	金剛出版
268	思春期精神保健相談		財団法人公衆衛生協会

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
269	人と場をつなぐケア	外 口 玉 子	医 学 書 院
270	精神分裂病研究の進歩	藤 縄 昭	星 和 書 店
271	「家族」と治療する	石 川 元	未 来 社
272	初期分裂病	中 安 信 夫	星 和 書 店
273	自己愛と境界例 J. D. マスターソン著	富山幸佑、尾崎新 訳	星 和 書 店
274	入院集団精神療法	山口隆、小谷英文	へるす出版
275	精神科コンサルテーションの技術 L. S. グリックマン著	荒木志朗、栗田史朗、西浦研志 訳	岩崎学術出版社
276	最近精神衛生（その理論と応用）	高 木 四 郎	慶 応 通 信
277	新中間管理職のメンタルヘルス	佐々木 時 雄	弘 文 堂
278	新版 精神衛生	小杉正太郎 編著	川 島 書 店
279	職場のメンタルヘルス	加藤正明、精神衛生普及会 編	保 健 同 人 社
280	メンタルヘルス	加 藤 正 明	創 元 社
281	ライフサイクル精神医学	西 園 昌 久	医 学 書 院
282	コーフト自己心理学セミナー 1 ミリアム・エルソン編	伊 藤 洗 監訳	金 剛 出 発
283	遊びリテーション	竹内孝仁、稲川利光 三好春樹、村上周 紀	医 学 書 院
284	青年期の精神科臨床	清 水 将 之	金 剛 出 版
285	プロイラー精神医学総論	切 替 辰 哉	中 央 洋 書 出 版
286	生涯発達学 R. M. ローナー N. A. ブリッジ ロスナガール編	上 田 礼 子 訳	岩崎学術出版
287	電話相談の基礎と実際	長谷川浩一 編集 横浜いのちの電話 調査研究部 編	川 島 書 店
288	地図は現地ではない	中 沢 正 夫	萌 文 社
289	岩波講座 子どもの発達と教育4 幼年期発達段階と教育1		岩 波 書 店
290	精神医学の臨床研究 サリヴェン	中井久夫、山口直彦、松川周吾 訳	み す ず 書 房
291	治療のダイナミックス	轟 俊 一、渡 辺 登	岩 波 書 店
292	心理療法の諸原則 上 I. B. ワイナー著	秋谷たつ子、小川俊樹、中村伸一	星 和 書 店
293	心理療法の諸原則 下 I. B. ワイナー著	秋谷たつ子、小川俊樹、中村伸一	星 和 書 店
294	錯覚と脱錯覚	北 山 修	岩崎学術出版
295	サイコセラピー練習帳	丸 田 俊 彦	岩崎学術出版
296	眠らぬダイヤル（いのちの電話）	稲村博、林義子、斉藤友紀 編	新 曜 社
297	分裂病の精神病理 16	上 居 健 郎	東京大学出版社
298	森田式精神健康法	長 谷 川 洋 三	三 笠 井 房

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
299	一般医のための森田療法	樋口正元	太陽出版
300	森田療法のすすめ	高良武久	白揚社
301	続日本 収容所列島の60年	竹村堅次	近代文芸社
302	境界例の臨床	牛島定信 著	金剛出版
303	グループサイコセラピー	川室優 訳	金剛出版
304	無意識1 無意識へのプロレゴメナ	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
305	無意識2 無意識と言語	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
306	無意識3 神経学と無意識	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
307	無意識4 無意識と精神医学的諸問題	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
308	無意識5 無意識の社会学、哲学への影響	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
309	ある神経病者の回想録 デニエル、パウル シュレーパー著	渡辺哲夫 訳	筑摩書房
310	東洋の狂気誌	小川晋	思索社
311	分裂病と他者	木村敏	弘文堂
312	精神分析と仏教	武田専	新潮選書
313	死に急ぐ子供たち シンシア、R. フェファー	高橋祥友 訳	中央洋書出版部
314	引き裂かれた子供たち	池田由子	弘文堂
315	妻が危ない	池田由子	〃
316	心理療法論考	河合隼雄	新曜社
317	老いのソウロロジー (魂学)	山中康裕	有斐閣
318	陽性陰性症状評価尺度	山田、増井、菊本 訳	星和書店
319	老人虐待	金子善彦	星和書店
320	正常な「老い」と異常な「老い」	清田一民	星和書店
321	精神分裂病治療のストラテジー	浅井昌弘、八木剛平	国際医書出版
322	十代の四季	上田基	ミネルヴァ書房
323	児童精神保健	島田照三、森田啓吾 横山桂子 著	ミネルヴァ書房
324	別冊発達⑨乳幼児精神医学への招待	小此木啓吾 渡辺久子編	ミネルヴァ書房
325	老人福祉とは何か	一番ヶ瀬康子 十古林佐知子著	
326	高齢化社会と介護福祉	一番ヶ瀬康子 仲村優一 北川隆吉編	ミネルヴァ書房
327	現代人の精神異常	福田哲雄 著	ミネルヴァ書房
328	ゆれうごく家族	金田利子 杉浦	ミネルヴァ書房

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
329	ストレスの心理学	リチャード・S・ラザルス スーザン・フェルクマン著	実務教育出版
330	逆転移1	ハロルド・F・サルーズ 杉本雅彦他訳	みすず書房
331	外来精神医学から	等原嘉	みすず書房
332	家族療法ケース研究④	牧原浩著	金剛出版
333	家族に学ぶ家庭療法	鈴木浩二監修	金剛出版
334	非行の臨床	石川義博著	金剛出版
335	臨床精神医学講義	日大精神神経科	星和書店
336	自己愛と境界例	ジェームス・F・マスターソン著 富山幸佑 尾崎新著	星和書店
337	小児精神医学	新井清二郎 長畑正道他著	中山書店
338	老年期の性	大工原秀子	ミネルヴァ書房
339	性ぬきに老後は語れない	大工原秀子	ミネルヴァ書房
340	精神科リハビリテーション	J・K・ウイング B・モリス編 高木隆郎監訳	岩崎学術出版社
341	異常心理学講座⑥	土居健郎 等原嘉 宮本忠雄 木村敏責任編集	みすず書房
342	中井久夫著作集 1 分裂病	中井久夫	岩崎学術出版社
343	“ 2 治療	“	“
344	“ 3 社会・文化	“	“
345	“ 4 治療と治療関係	“	“
346	“ 5 病者と社会	“	“
347	“ 6 個人とその家族	“	“
348	“ 別巻1 中井久夫共著論文集	山中康裕編	“
349	“ 別巻2 H・NAKAI 風景構成法	山口直彦編	“
350	コンサルテーション・リエゾンの実際	荒木富士夫編著	岩崎学術出版社
351	職場と心の健康 ①企業と産業精神衛生	財団法人精神分析学振興財団編 岩崎徹也 小此木啓吾 武田専監修	東海大学出版会
352	“ ②企業と中高年	“	“
353	“ ③企業と家族	“	“
354	“ ④企業と転勤	“	“
355	“ ⑤個人と性格	“	“
356	安永治著作集 1 ファントム空間論	安永治	金剛出版
357	“ 2 ファントム空間論の発展	“	“
358	“ 3 方法論と臨床概念	“	“

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
359	精神科リハビリテーションの実際 1	F・N・ワッツ D・H・ベネット編 福島裕監訳	岩崎学術出版社
360	精神科リハビリテーションの実際 2	F・N・ワッツ D・H・ベネット編 福島裕監訳	岩崎学術出版社
361	精神科難治療例 私の治療	融道男編	中外医学社
362	これからの精神保健・精神医療	谷中輝雄編	やどかり出版
363	十亀史郎講演集1	十亀記念事業委員会	伊勢出版
364	地図は現地ではない	中沢正夫	明文社
365	心理劇とその世界	増野肇	金剛出版
366	サイコドラマのすすめ方	増野肇	金剛出版
367	異常心理学講座 第十巻 文化・社会の病理	土居健郎他	みすず書房
368	気分変動症	S・Wパートン H・Sアキスアル	金剛出版
369	幻覚・妄想の臨床	濱中淑彦 河合逸雄 他編集	医学書院
370	子どもの心の臨床	中沢たえ子著	岩崎学術出版社
371	シリーズ現代の病4 職場の病	河野友信編集	医学書院
372	精神保健と看護のための100か条	中沢正夫	明文社
373	精神保健「家族教室」	全国精神保健相談者会他 田中英樹	明文社
374	精神保健マニュアル	吉川武彦	南山堂
375	精神分裂病研究の進歩 1991 Vo2 No1	精神分裂病研究編集委員会	星和書店
376	“ 1992 Vo3 No1	“	“
377	臨床精神医学論集	土居健郎教授退職記念論文集刊行会	
378	集団精神療法の進め方	山口隆 中川賢幸編	星和書店
379	臨床心理学体系 ①臨床心理学の科学的基礎	河合逸雄 福島章 他編集	金子書房
380	“ ②パーソナリティ	小川捷之 託摩武俊 他編集	“
381	“ ③ライフサイクル	小川捷之 斉藤久美子 他編集	“
382	地域精神保健活動の実際	吉川武彦編	金剛出版
383	安永浩著作集 症状論と精神療法	安永浩	“
384	精神保健福祉の展開	岡上和雄編	相川書房
385	臨床心理学大系4 家族と社会	岡堂哲雄、鎌幹八郎 馬場禮子 編集	金子書房
386	“ 5 人格の理解①	安香宏、田中富士夫 福島章 編集	“
387	“ 6 “ ②	村瀬孝雄、大塚義孝 安香宏 編集	“
388	“ 7 心理療法①	小此木啓吾、成瀬悟策 福島章 編集	“
389	“ 8 “ ②	上里一郎、鎌幹八郎 前田重治 編集	“

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
390	臨床心理学大系9 心理療法③	河合隼雄、水島忠一 村瀬孝、誰 編集	金子書房
391	“ 10 適応障害の心理臨床	安井健二、小川捷之 安香、宏 編集	“
392	“ 11 精神障害の心理臨床	福島章、村瀬孝 山中康、裕 編集	“
393	シリーズ精神科症例集① 精神分裂病I-精神病理-	木村 敏 責任編集	中山書店
394	分裂病の精神病理と治療②	湯 浅 修 一 編	星和書店
395	“ ③	中 井 久 夫	“
396	リバーマン実践的精神科リハビリテーション	ポール・リバーマン 安西信雄・池淵恵美 監訳	創造出版
397	メンタルヘルスシリーズ サラリーマン・アパシー	延 島 信 也 編	同朋舎
398	“ 働く女性のメンタルヘルス	馬 場 房 子 編	“
399	転換期に立つ精神病院	ゆうゆ編集部・氏家憲章	萌文社
400	狂気の社会史	ロイ・ポーター著 日羅公和訳	法政大学出版局
401	こころの病いと家族のこころ	滝 沢 武 久	中央法規出版
402	老年性精神疾患	エミール・クレベリン 著 伊 達 徹 訳	みすず書房
403	河合隼雄著作集 5 昔話の世界	河 合 隼 雄	岩波書店
404	“ 6 子どもの宇宙	“	“
405	“ 13 生きることと死ぬこと	“	“
406	地域精神保健実践シリーズ② 保健ダイケア	全国精神保健相談員会編 田 中 実 樹 ほか著	萌文社
407	慢性疾患と家族	フロマワルシュ/キヨロム・M・アンダーソン編 野中猛・白石弘巳 監訳	金剛出版
408	精神科ディケアマニュアル	宮 田 勝	“
409	脳障害者の心理療法	小 山 充 道	北海道大学図書刊行会
410	憑作と精神病	高畑直彦、七田博文、内潟一郎	“
411	児童虐待(危機介入編)	齊 藤 学	金剛出版
412	これからの地域保健	厚生省健康政策局計画課監修	中央法規出版
413	子どもの虐待防止	児童虐待防止制度研究会編	朱鷺書房
414	老いの心と臨床	竹 中 星 郎	診療新社
415	Alcoholism : Origins and Outcome	R.M.Rose・J.F.Barrett	RAVEN
416	Handbook of Social Psychiatry	A.S.Henderson・G.Burrows	ELSEVIER
417	Mental Health in the Elderly	H.Häfner・G.Moschel N.Sartorius	Springer-Verlag
418	Stress testing Edition 3	F.A.Davis.	M.H.ELLESTAD
419	Hysteria and Related Mental Disorders	D.W.Abse	WRLGHT
420	Social Support, Life Events, and Depression	N.Lin・A.Dean・Alfred Dean W.N.Ensel	ACADEMIC PRESS



番号	書名	著者又は訳者	出版社名
421	私の分裂病観	中 沢 洋 一	金 剛 出 版
422	地域精神保健実践マニュアル	吉竹 川 島 武 彦 止	金 剛 出 版
423	精神分裂病の心理社会治療	藤高 純 井 昭 裕 編	金 剛 出 版
424	力動指向的芸術療法	マーガレット・ナウムブルグ著 中井久夫監修、内藤あかね訳	金 剛 出 版
425	職場のメンタルヘルス	加藤 藤 正 明 編 精神衛生普及会	保 健 同 人 社
426	1995 長寿社会行政の展望	政 府 関 係 庁 省	労働行政資料調査会
427	精神分裂病者の責任能力	西 山 詮	振興医学出版社
428	精神医学を築いた人びと上・下	松 下 正 明	ワールドプランニング
429	病いの語り	デーサー・クライマン	誠 信 書 房
430	災害ストレスと心のケア	荒木 憲一、川崎ナヨミ 長岡 興樹、中根 允文	医 療 薬 出 版
431	逆転来多1、2、3	ハロルド・F・サールズ	み す ず 書 房
432	精神障害者の地域福祉	日本社会事業大学をかこむ地域連絡会 全国精神障害者家族会連合会	相 川 書 房
433	誰にもわかる分裂病とそのケア	ジョン・F・ソートン 編著 メアリー・V・シーマン	中 央 法 規
434	分裂病の精神病理と治療1～5	吉松和也、湯浅修一、中井久夫 最田 眞、永田俊彦	星 和 書 店
435	分裂病症状をめぐる	村 上 靖 彦	星 和 書 店
436	続 精神医学を築いた人びと上・下	松 下 正 明	ワールドプランニング
437	ケースマネージメント入門	デイビットP・マクスリ著	中 央 法 規
438	精神障害者地域生活支援センターの実際	全国精神障害者社会復帰施設協会	中 央 法 規
439	心的外傷と回復	ジュディス・L・ハーマン	み す ず 書 房
440	精神保健リハビリテーション	C. ヒューム、I. プレン	岩 崎 学 術 出 版
441	セルフヘルプ・グループ	アルフレッド・カッツ	岩 崎 学 術 出 版
442	行動療法2	山 上 敏 子	岩 崎 学 術 出 版
443	虐待を受けた子どものプレイセラピー	ギ ル	誠 信 書 房
444	子どもと家族への援助	村 瀬 代 子	金 剛 出 版
445	分裂病の精神病理と治療8	中 安 信 夫	星 和 書 店
446	内観療法	川 原 隆 造	新 興 医 学 出 版
447	薬物依存	加 藤 伸 勝	新 興 医 学 出 版
448	ストレス教室	山 本 晴 義	新 興 医 学 出 版
449	依存症-35人の物語	な だ い な だ	中 央 法 規 出 版
450	DSM-IV 精神疾患の分類と診断の手引き	高橋二郎、大野 裕、染矢俊幸訳	医 学 書 院
451	ICD-10 精神および行動の障害 臨床記述と診断ガイドライン	藤 道男、中根允文、小見山実監訳	医 学 書 院

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
452	精神分裂病 臨床と病理1	松本雅彦編	医学書院
453	治療薬マニュアル	高久史麿、鴨下重彦監修	医学書院

〈定期刊行物〉

精神医学	医学書院
日本社会精神医学会	星和書店
アルコール医療研究	“
集団精神療法	日本集団精神療法学会
ソーシャルワーク研究	和川書房
季刊精神療法	金剛出版
The American Journal of Psychiatry	Official Journal of the American Psychiatric Association
児童・青年精神医学とその近接領域	日本児童青年精神医学会
老年精神医学雑誌	ワールドプランニング
心理学評論 (Vol32 No1~4, Vol33 No1~4)	心理学評論刊行会
心理臨床	星和書店
日本精神病院協会雑誌	日本精神病院協会
臨床精神医学	国際医書出版
精神障害と社会復帰	やどかり出版
公衆衛生	医学書院
季刊ゆうゆう	萌文社
週刊保健衛生ニュース	社会保険実務研究所
季刊職リハネットワーク	日本障害者雇用促進協会
JDジャーナル	日本障害者リハビリテーション協会
ぜんかれん	全国精神障害者家族会連合会

〈ビデオテープ〉

マイクロカウンセリング I	基本的かかわり技法	前編
“	II	“
		後編
老人ボケを防ぐには		
社会人としての言葉使いの基本		
作業療法 生活を拡げる治療と援助		
老人と飲酒		
アルコールと循環器		

肝臓とアルコール代謝

あと一杯が飲めるか

与越市つくしの里の実践から

地域ぐるみでおこなわれている社会復帰活動を紹介する

こころの病をかかえて — 精神障害者は今

病院を出て街で働きたい 報道特集 (1987年)

君は空の青さを知っているか — 精神障害者が地域で生きていくために

今ここに生きる — 精神障害者とともに

災害と心のケアハンドブック

ひとりぼっちをなくそう — 精神障害者本人の会

そよ風はどこにでも ~地域精神保健の実際~

第一巻: いつでも どこでも だれにでも

第二巻: くらす はたらく つどう

家族のための分裂病講座

正しい知識は回復への道

ゆっくり治療し、再発を防ごう

知っておきたい薬の知識

あちこたねえ

精神障害者の地域生活支援

ケースの心をとらえる面接

第1巻: 面接の基本

第2巻: 面接技術の向上をめざして

未成年者にアルコールなんかいらぬ

老化と飲酒

おかえり

#### 〈精神保健啓発用パネル〉

##### I こころの健康づくりシリーズ (7枚)

こころの健康とは

こころの問題はどこへ相談すればいいの?

こころの病気にかかる人はどれくらい?

こころの健康づくり

こころとからだ

生活環境とストレス

ライフサイクルと心の病

##### II 社会復帰シリーズ (7枚)

社会復帰のための4要素

共同作業所とは

ディケアとは

家族会活動

共に生きる社会

社会復帰のための社会資源－1. 制度－

“ －2. 施設と活動－

Ⅲ(ライフサイクル) 思春期シリーズ (5枚)

思春期のこころ

親ばなれ

思春期の心の病のサイン

思春期のからだ

子ばなれ

Ⅳ(ライフサイクル) 老年期シリーズ (10枚)

老年期の心と体の特徴

痴呆とは①

仮性痴呆

痴呆の介護①

痴呆はどうして起こる

老年期の心の病(精神障害)

痴呆とは②

痴呆の予防

痴呆の介護②

健やかなる老後

---

平成9年度版 こころの健康センター所報

平成10年11月 発行

三重県こころの健康センター  
(精神保健福祉センター)

〒514-1101 久居市明神町 2501-1  
三重県久居庁舎1階  
電話 059-255-2151

---